

# ホシザキグリーン財団研究報告特別号

第 14 号

島根県の海岸に生息する昆虫

林 成 多

2015 年 1 月

公益財団法人 ホシザキグリーン財団  
ホシザキ野生生物研究所



編集委員会 Editorial Board

委員長 Editor : 岩城良行 Yoshiyuki IWAKI

委員 Editorial Staff : 森 茂晃 Shigeaki MORI, 林 成多 Masakazu HAYASHI,  
三浦憲人 Norihito MIURA

## 島根県の海岸に生息する昆虫\*

林 成 多

ホシザキグリーン財団, 〒691-0076 島根県出雲市園町 1664-2 ホシザキ野生生物研究所

### Marine and Coastal Insects in Shimane Prefecture, West Japan

Masakazu HAYASHI

Hoshizaki Green Foundation, Okinoshima 1659-5, Sono, Izumo,  
Shimane Pref., 691-0076 Japan

**Abstract** The coastlines of Shimane Prefecture, including Oki Islands in Sea of Japan, are one of the well-preserved areas in West Japan. The environments of the coast comprise rocky beach, gravel beach, sand beach, sand dune, estuary, and brackish lake. The insects living in the coast of the area include Orthoptera, Dermaptera, Mantodea, Hemiptera, Neuroptera, Coleoptera, Lepidoptera, Hymenoptera, and Diptera. In this paper, the ecological photographs of the insects are shown with brief notes on their features.

**Key words** : back shore, coastal plant, foreshore, intertidal zone, supralittoral zone

**キーワード** : 後浜, 海岸植物, 前浜, 潮間帯, 潮上帯

### はじめに

本州西部の日本海側に位置する島根県は、大小さまざまな島からなる隠岐諸島と東西に長い海岸線を持つ本土部がある。隠岐諸島や島根半島には規模の大きな岩礁と小規模な浜（砂浜・礫浜）があり、出雲地方など砂丘の発達する海岸には自然度の高い砂浜がある。砂丘の発達によって平野部に潟湖が形成し、中海や宍道湖、神西湖などの汽水湖がその代表である。江の川や高津川などの河川の下流域にも汽水域が存在する。また、日本海は潮位変動の幅が狭く、その変動もやや不規則であるため、潮間帯の発達する太平洋側とは大きく異なっている。一般に晩秋から春にかけての時期は、冬型の気圧配置による強い季節風によって海が荒れる日が多く、北西や西からの強風によって大量の漂着物が海岸に打ち寄せる。その一方で夏は穏やかになり、漂着物も少ない。

島根県の海岸は、本州の他地域に比べて自然度の高い海岸が多く、そこに生息する昆虫類も多様である。ハナバチ類などの訪花性昆虫や海岸性甲虫については詳しい調査が行われており（皆木ほか, 2000; 前田ほか, 2004; 河上・林, 2007; 林, 2013a など）、近年ではいくつかの新種も記載されている（Maruyama and Hayashi, 2009; Maruyama, 2011a, b; Yamamoto and Maruyama, 2012; Ono

---

\*ホシザキグリーン財団研究業績 第202号

and Maruyama, 2014; Jäch and Delgado, 2014). その一方、海岸におけるもっとも多様性も高い昆虫である双翅類については、柿沼 (2009a, b, 2010) の報告がある他はほとんど調査が行われていない。鳥取県東部の鳥取砂丘では、砂丘やその周辺に生息する昆虫として 679 種が記録されている (鶴崎ほか, 2012) が、島根県内でもっとも調査が行われている出雲砂丘でも 373 種が記録されているだけである (近木, 1975; 林・松田, 2014)。島根県の海岸に生息する昆虫類全体の多様性の解明は、遅れていると言わざるを得ない。逆に言えば、多くの知見が得られる可能性を秘めた地域であるとも言え、今後の研究成果が大いに期待できる。

筆者は多くの方々の協力を得て、主に島根県の海岸に生息する甲虫類の調査を行ってきた。その成果は林 (2013a) にまとめている。その一方で、甲虫類調査の時に目にする甲虫以外の昆虫については、採集すら十分にできていなかった。そこで、海岸に特有の昆虫だけでなく、海岸でよく見られる広生種の中でも特に好海岸性種や準海岸性種と呼ばれる昆虫も含めた形で、生態写真を中心とした図鑑を作成することにした。甲虫類が専門の筆者にとって、各種の同定が最大の難問であったが、協力者の力を得ることにより、できるだけ標本に基づいた正確な同定結果を反映することができた。今回、掲載できた種は島根県の海岸に生息する昆虫のほんの一部に過ぎないが、多様性の一端は紹介できたのではないかと考えている。将来的にはより充実した内容の図鑑を作成したいと考えており、本書をその最初のステップとしたい。

## 海岸に生息する昆虫

海岸に生息する昆虫には、海岸に特異的に生息する海岸性昆虫だけでなく、海岸から内陸まで広く生息する昆虫もいる。海岸性昆虫の定義も含め、本報告で扱う昆虫について述べる。

海岸性昆虫の定義とよく似ている定義に「海岸植物」がある。昆虫と同様、植物の種によって生育地としての海岸の重要性は異なる。澤田ほか (2007) は日本の海岸植物を総括し、そのチェックリストを作成した。この中で海岸植物を「海と陸との境界部に特有の立地 (砂浜・砂丘・塩湿地・河口汽水域・海崖・岩場・浅海域など) を主な生育地とし、それ以外の立地にはほとんど出現しない在来の維管束植物種」と定義し、「海岸の植生に類出する種であっても、内陸の環境にも多く出現するものや、外来種は含めないこととした」と述べている。日本の海岸性昆虫を網羅し、チェックリストを作成するような研究は、これまでのところ行われていないが、海岸性昆虫もほぼ同じ定義で扱って問題はないだろう。しかしながら、昆虫は動物であることから移動性を持ち、特に完全変態の昆虫では幼虫と成虫で生息環境が大きく異なる種が多いことから、下記のように海岸性昆虫 (海岸性種) を定義する：生活史のすべて、または一部において、海と陸との境界部に特有の立地 (砂浜・砂丘・塩湿地・河口汽水域・礫浜・海崖・岩場・海面など) を主な生息地とし、それ以外の立地にはほとんど出現しない昆虫。また、海岸性種に含まれないが、海岸にも出現する昆虫を広生種として扱う。

海岸性昆虫について、澤田ほか (2007) の海岸植物の定義を参考に定義したが、同様な定義はすでになされている。山崎 (1975) は海岸性甲虫を「海岸環境を離れては生活できず、従って他地域では発見できない。真の海岸性甲虫ということが出来る」と述べ、その他の海岸に出現する甲虫を、「好海岸性甲虫」と「客員性海岸甲虫」に分け、客員性海岸甲虫を「非海岸性甲虫」と同義とした。

さらに山崎（1997）は、海岸性昆虫を「真の海岸性種」、「海岸・河口種」、「好海岸性種」に区分している。河上ほか（2004）は、海浜や河口に生息する甲虫をそれまでの研究に基づき、「海浜性種」、「好海浜性種」、「広生種」に区分している。なお、好海岸性種（好海浜性種）と呼ばれる昆虫の多くは、砂地の環境を生息地としている種や砂地に生える植物に依存している種が多い。

筆者の海岸性昆虫（海岸性種）の定義は、汽水域を含めた海岸に特異的に生息する種（ただし、生活史すべての時期に海岸に生息している必要はない）を広く認め、その一方で定義がより困難である好海岸性昆虫（準海岸性昆虫ともよばれる）はすべて広生種として扱う。もちろん、この定義を用いたからといって厳密に区分ができるわけではない。例えば、ハマスズは内陸の河川にも生息することが知られているが、海岸が主要な生息地であることは疑いようがなく、海岸性種として扱った。一方、カワラハンミョウやオオヒョウタンゴムシ、オオウスバカゲロウは、本来、海岸だけでなく内陸の河川敷などにも生息していたが、内陸部の生息環境がほとんど消滅した結果、現在では海岸が主要な生息地となっている。現状からみれば海岸性昆虫の定義が当てはまる。しかしながら、この3種は、この数十年間で本来の生息域の多くを失っており、広生種として扱うべきであると考えらる。

前置きが長くなったが、本書では海岸性種を中心に生態写真を撮影できた種を掲載したが、広生種も扱った。海岸の昆虫相を解明する上で、好海岸性種や準海岸性種とよばれる種も、海岸の環境に良く適応しており重要な海岸昆虫相の構成種である。また、環境省や各地方自治体の発行するレッドデータブックやレッドリストにおいて絶滅危惧種とされている種も少なくない。これは全国的に自然度の高い海岸や内陸の砂地環境の消失がいちじるしいことを示している。昆虫類においても、未調査の海岸における野外調査や、日本列島における海岸昆虫のチェックリストの作成、最新のデータに基づく絶滅の危険性の判定を行い、具体的な保全対策を進めていくことが急務である。

### 海岸の多様な生息環境

海岸には、地形や地質、潮位との位置関係などの違いにより、昆虫類の多様な生息環境が形成されている。ここでは島根県の海岸に生息する昆虫類について、いくつかのタイプに分け、そこに生息する代表的な種類を紹介する。

#### 海面

海面に生息できる昆虫は非常に少ないが、アメンボ科のウミアメンボ類が海面に生息する。ウミアメンボ類はさらに沿岸域（内湾など）に生息する種（沿岸性種）と遠洋に生息する種（遠洋性種）がいる。遠洋性種は海岸性というよりは海生（海棲）種そのものである。島根県ではウミアメンボなどの沿岸性種は確認されていない。また、同じく沿岸性種であるケシウミアメンボ（カタビロアメンボ科）も確認されていない。一方、遠洋性種ではセンタウミアメンボとツヤウミアメンボの2種が出雲地方の砂浜海岸に漂着することが知られている（端山，2009a；林・松田，2011）。この2種は、10月の下旬頃、西日本を含めた日本周辺が西高東低の気圧配置になり、西または北西の風が強く吹いた時、西～北向きの海岸に大量に漂着することがある。このことから、少なくとも夏の期間には、東シナ海から暖流によって多数の個体が日本海へ移動していることが推定される。しかしな

がら、日本海での生息状況は、分布の範囲や個体数の季節変動・年次変動など不明な点が多い。

### 岩礁や礫浜の潮間帯

潮間帯とは、満潮時に海面下になり干潮時には海面上になるゾーンであり、陸と海の環境の境界である。海岸性昆虫類の中には、満潮時には海面下に没しながらも干潮時には活動することができる特殊な生態の昆虫が知られている。しかしながら、鳥根県付近における日本海の潮位変動は不規則で潮位差も少なく、太平洋側のような規則的な潮位変動はない。そのため、時期によっては潮間帯が長期間に渡って海面下や海面上にあるため、生息する昆虫は限定されている。このような環境にも生息できる昆虫の1つがヤマトイソユスリカである。この種は、早春から初夏にかけて、平均的な海水面が低下する時期に岩礁や防波堤で羽化するため、日本海特有の潮位変化に上手く対応している。干上がった岩の表面には、ヤマトイソユスリカのほかに数種の双翅類が見られるが、未同定である。

礫浜の潮間帯は、潮位差が少ないため、ほぼ汀線付近と一致する。波打ち際の礫の隙間に多くの昆虫が生息している。もっとも多く生息している種はハマベハサミムシ（ハサミムシ）であり、まれにイソハサミムシも見られることがある。甲虫類ではハネカクシ科が種・個体数共に多く、イソハネカクシ類やセミゾハネカクシ類、ヒメハネカクシ類などヒゲブトハネカクシ亜科の種が占めている。イソハネカクシ類の口器は特殊な形態をしており、細長い大顎と小顎を持ち、礫間に多く生息するトビムシ類を捕食していると考えられている。このほかにヒラズイソアリヅカムシやナギサスズ、ウミミズカメムシ、小型の双翅類も生息している。これらの昆虫は、波打ち際を掘ることによって発見できるが、同時にアカイソガニやマメアカイソガニなどの甲殻類、ジムカデ類、ゴカイ類、ミミズハゼなどが観察され、海の生物と共存していることが実感できる。

### 岩礁や礫浜の潮上帯

潮上帯は、潮間帯よりも上のゾーンで、波浪の影響により植生を欠いている。岩礁では岩石が露出した状態になり、岩の割れ目などがイブモコブセスジダルマガムシやババチビドロムシ、イソジョウカイモドキなどの隠れ場所となっている。これらの海岸性甲虫は、太平洋側では潮間帯に生息するが、日本海側では潮上帯に生息しており、潮位変化の違いに適応した結果であえと考えられる。

岩礁や礫の上に海藻が漂着すると、多様な昆虫の生息場所になる。漂着海藻は、表面は乾燥しても内部には水分が多く、腐敗が急速に進む。そのため、ツマグロイソハナバエ（ノトツマグロイソバエ）などの双翅類の成虫が集まり、その幼虫が大量に出現する。これらの幼虫や囲蛹を捕食・寄生するハネカクシ類も多数集まってくる。大型のカタモンハネカクシや中型のヒゲブトハネカクシ類・アバタウミベハネカクシ類、小型のヒメハネカクシ類などである。ヒゲブトハネカクシ類の幼虫は、ハエ類の囲蛹に内部寄生することが知られている（Moore and Legner, 1976）。また、ヨコエビの仲間であるハマトビムシ類も個体数が多く、ハネカクシ類が捕食していると考えられる。このほか、海藻の下に微少なハマベムクゲキノコムシが見られることもあるほか、ハマベハサミムシも多い。

岩礁の窪みには雨水が溜まりやすい。また、波浪の影響により、海水も混じる。塩分と強い日射

による水温上昇など、岩礁の水たまりは過酷な環境である。このような場所にもチャイロチビゲンゴロウやトウゴウヤブカの幼虫が生息している。常に淡水が流入する場所ではコモンシジミガムシなどの水生昆虫が生息している。

### 砂質海岸の前浜

前浜は、潮間帯に相当する砂浜である。日本海側においては、このゾーンは常に波の影響を受けるため、昆虫は少ない。礫浜では礫間に微生息環境が形成するが、砂では隙間がほとんどないことも大きな要因である。汀線や附着した海藻には、複数種の双翅類の成虫が見られるが、島根県ではほとんど調べられていない。イエバエ科のカトリバエ類やムシヒキアブ科のハマベコムシヒキ、アシナガバエ科などが生息している。

### 砂質海岸の後浜

後浜は、潮上帯に相当する砂浜である。すなわち、満潮時の汀線から海浜植生帯との境界付近までである。海浜植生との境界は、荒天時の波浪によって影響を受ける限界とほぼ一致するが、風による砂の移動も重要な要素である。一般に、汀線から海浜植生帯までは緩やかな傾斜となるが、海浜への河川や沿岸流による砂の供給量を波の浸食量が上回ると、海食崖ができる。日本海側では特に冬季の波浪と季節風の影響が大きく、砂浜が浸食され、崖やコンクリート護岸化された場所も少なくない。

後浜には海藻や流木などの漂着物が数多く集積する。これは荒天時に通常より内陸側へ漂着物が運ばれるためである。前浜の漂着物が再び波によって運ばれやすいのに対して、後浜の漂着物は再び波で移動される可能性が低い。軽い漂着物は風で運ばれることもあるが、通常は飛砂により埋没する。一般に、晩秋から春の時期にホンダワラなどの海藻類が多く漂着する。また、梅雨や台風などの豪雨の後には、ヨシなどの草本や流木などが多く漂着することがある。これらは主に河川の増水によって流下したものであると考えられる。

砂浜の漂着海藻には多くの昆虫が集まる。双翅類の成虫が集まり、やがて大量の幼虫が孵化する。これらの双翅類の幼虫は、海藻の分解だけでなく海から陸への有機物の移動においても大きな役割を果たしているとみられる。これらの幼虫や囲蛹を捕食・寄生するハネカクシ類やエンマムシ類も多数集まってくる。ケシガムシ類の成虫は植食性で漂着海藻を食べるとみられるが、その幼虫は捕食性である。

魚や海鳥などの死体にはニクバエ類などの双翅類が集まり、その幼虫を捕食するハネカクシ類やエンマムシ類もやってくる。動物の死体は、海藻に比べるとその供給はより不安定で量も少なく、また、カラスやトビなどの鳥や海岸林に生息するケモノとの競合もあるが、利用する昆虫類にとって重要な資源であり、高い探知能力や移動能力、繁殖力を持つことによって適応しているものと考えられる。

流木などの漂着物は多くの昆虫にとって、日中の隠れ場所になっており、オオハサミムシやゴミムシダマシ類などが流木の下側に潜っている様子が観察できる。

砂浜にはハマダンゴムシやハマトビムシ類などの節足動物が生息し、個体数も多い。海浜に多い

ヒョウタンゴミムシはハマダンゴムシを捕食することが報告されている。筆者はハマトビムシ類を捕食するツヤケシアカバウミベハネカクシを観察したことがある。

### 砂質海岸の海浜植生帯

自然度の高い砂浜には、海浜植物帯が発達する。海浜植物は海岸の砂浜を主な生育地とする植物（維管束植物）であるが、内陸の砂丘に生える植物もある。鳥根県の砂浜では、ハマゴウ、コウボウムギ、ハマヒルガオなどの群落が広い面積を占めることが多く、次いでケカモノハシ、ハマエンドウ、ネコノシタ、ハマニガナ、ハマボウフウなども多い。

海浜植物帯は、海浜に生息する昆虫にとっても主要な生息環境である。その1つは海浜植物を栄養源とする昆虫の存在である。例えば、スナヨコバイ（寄主：コウボウムギ）やヒメマダラナガカメムシ（寄主：ハマヒルガオなどのヒルガオ類）、ハマゴウノメイガ（寄主：ハマゴウ）など寄主特異性の高い種のほか、ハマゴウの主要な訪花性昆虫であるキヌゲハキリバチ（コウベキヌゲハキリバチ）のように特定の海浜植物との結びつきが強い種、海浜に生えるさまざまな植物を食べるスナムグリヒョウタンゾウムシなど、関係性は多様である。ゴミムシダマシ科やコガネムシ科の幼虫は、砂中で漂着物や海浜植物由来の腐植質を食べていると考えられる。もう1つは、海浜植物の根元などを隠れ場所として利用する昆虫もいる。夜間活動するゴミムシダマシ類の成虫は、昼間にはハマヒルガオやコウボウムギなどの根元に浅く潜っていることが多い。コガネムシ科のニセマグソコガネやニセマルケシマグソコガネは、海藻などの漂着物の下から見つかることはほとんどなく、ケカモノハシなどの海浜植物の根元に砂中に潜って生息している。このほか、ハマベウスバカゲロウやコカスリウスバカゲロウ、オオウスバカゲロウの幼虫（アリジゴク）やヤマトマダラバッチャやハマスズなどの直翅類、ルリキオビジョウカイモドキやアカアシコハナコメツキも海浜植生帯の地表に生息している。これらの昆虫を捕食や寄生する昆虫も多く、クモバチ（ベッコウバチ）類やツチバチ類、コバチ類、ツリアブ類、ヤドリバエ類などの仲間である。鳥根県の海浜でよく見られる種としては、ナミコナフキクモバチ（別名ハイイロクモバチ、ナミコナフキベッコウ）やオオモンツチバチ、コモンツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、スキバツリアブなどがいる。

### 砂質海岸の砂丘

海岸の砂丘は、季節風による砂の移動が大きい場合には、ほとんど植生を欠いた状態になり後浜に似た環境となる。しかし、植生を欠いている砂丘では、内陸側への飛砂が多いため、人によってクロマツが植栽されてクロマツ林と変化してきた。ところが、クロマツも松枯れの影響を受けて衰退したため、現在はニセアカシアやセンダン、アキグミ、ヤブニッケイ、ヤツデなどの樹木が多く生えている。

森林の発達した砂丘では、内陸に生息する昆虫が多くなるものの、砂地という環境により、独特の昆虫相がみられる。特に植食性コガネムシ類は種数が多く、初夏に海岸で灯火採集を行うと、シロスジコガネやヤマトアオドウガネ、サクラコガネ属の複数種が多数飛来する。地表ではクロコウスバカゲロウやホシウスバカゲロウ属の幼虫が獲物を待ち構えている。地中にはオオヒョウタンゴミムシが生息し、夜間になると地表に現れて活動する。クロマツにはマツノマダラカミキリやウバ

タマムシが集まり、春にはハルゼミが稍近くで鳴く。砂丘内でも、地表に砂が露出している場所ではコカスリウスバカゲロウやオオウスバカゲロウの幼虫が生息している。クロマツの倒木にはオオゴキブリなどの食材性昆虫が生息している。

## 河口

砂浜を伴った河口では、湿った砂地にハラビロハンミョウやエリザハンミョウ、コハンミョウ、コホソトビゴミズギワゴムシなどの甲虫類や、カトリバエ類、ミナミカマバエ、アシナガバエ類などの双翅類が生息する。双翅類は詳しい研究は行われていないが、相当の種数が生息している。洪水によって流れて来たヨシなどの植物が漂着し、ウミベアカバハネカクシやヒメホソハマベゴミムシダマシなどの海岸性昆虫のほか、ホソチビゴミムシなどの広性種のゴミムシ類やヨツボシアリモドキなどのアリモドキ類なども見られることが多い。

ヨシ原を伴った汽水域ではツマグロマルハナノミが記録されている（林，2012d）。また、ヤマトヒメテントウなどのヒメテントウ類も生息している。

## 汽水域

鳥根県では国内ではもっとも規模の大きな汽水域の1つである宍道湖・中海がある。中海は海水の半分程度の塩分濃度があるが、宍道湖でももっとも海から遠い西岸部では塩分濃度もきわめて低くなるが、一部の海岸性昆虫が生息していることが知られている。特に砂浜にはツヤケシアカバウミベアカバハネカクシ（ウミベアカバハネカクシ）が多い。また、宍道湖で羽化するナゴヤサナエも河川の中流で孵化した幼虫が流下し、感潮域で羽化することが知られている（佐藤，1986；淀江ほか，1987など）。

## 各種の解説

次ページから、鳥根県内の海岸に生息する主な海岸性種・広生種について紹介する。凡例は以下の通りである。

**生態写真：**主として鳥根県内で撮影した生態写真を掲載した。撮影場所と撮影日を示した。希少種保全の観点から、いくつかの種については、詳細な地名を省略した。

**標本写真：**成虫の標本写真を掲載した。スケールバーは、特に記述がない場合はすべて1.0 mmである。

**特徴：**体のサイズと形態的な特徴を簡単に記述した。

**生態：**一般的な生態や鳥根県内での観察例を記述した。

**県内分布：**本土（出雲、石見に区分）および隠岐諸島（各島）の記録について記述した。

**文献記録：**主な文献記録を引用した。広生種については、主に海岸域での記録を引用した。

**備考：**その他、必要な項目を記述した。和名が複数ある種についてはこの項目に記した。

## 掲載種一覧

|   |    |
|---|----|
| ハマスズ <i>Dianemobius csikii</i> (Bolivar) (ヒバリモドキ科) .....                  | 11 |
| ナギサスズ <i>Caconemobius sazanami</i> (Furukawa) (ヒバリモドキ科) .....             | 12 |
| ヤマトマダラバッタ <i>Epacromius japonicus</i> (Shiraki) (バッタ科) .....              | 13 |
| ウスバカマキリ <i>Mantis religiosa</i> (Linnaeus) (カマキリ科) .....                  | 14 |
| イソハサミムシ <i>Anisolabis seirokui</i> Nishikawa (ハサミムシ科) .....               | 15 |
| ハマベハサミムシ <i>Anisolabis maritima</i> (Bonelli) (ハサミムシ科) .....              | 16 |
| オオハサミムシ <i>Labidura riparia</i> (Pallas) (オオハサミムシ科) .....                 | 17 |
| スナヨコバイ <i>Psammotettix kurilensis</i> Anufreiv (ヨコバイ科) .....              | 18 |
| ウミミズカメムシ <i>Speovelia maritima</i> Esaki (ミズカメムシ科) .....                  | 19 |
| ヒメマダラナガカメムシ <i>Graptostethus servus</i> (Fabricius) (ナガカメムシ科) .....       | 20 |
| スナコバネナガカメムシ <i>Blissus hirtulus</i> Burmeister (ナガカメムシ科) .....            | 21 |
| ヒメオオメカメムシ <i>Geocoris proteus</i> Distant (ナガカメムシ科) .....                 | 22 |
| サビヒョウタンナガカメムシ <i>Horridipamera inconspuica</i> (Dallas) (ナガカメムシ科) .....   | 23 |
| イチゴチビナガカメムシ <i>Stigmatonotum geniculatum</i> (Motschlsky) (ナガカメムシ科) ..... | 24 |
| ハマベナガカメムシ <i>Peritrechus femoralis</i> Kerzhner (ナガカメムシ科) .....           | 25 |
| ハマベツチカメムシ <i>Byrsinus varians</i> (Fabricius) (ツチカメムシ科) .....             | 26 |
| ブチヒゲカメムシ <i>Dolycoris baccarum</i> (Linnaeus) (カメムシ科) .....               | 27 |
| ハマベウスバカゲロウ <i>Myrmeleon solers</i> Walker (ウスバカゲロウ科) .....                | 28 |
| クロコウスバカゲロウ <i>Myrmeleon bore</i> Tjeder (ウスバカゲロウ科) .....                  | 29 |
| ココスリウスバカゲロウ <i>Distoleon nigricans</i> (Okamoto) (ウスバカゲロウ科) .....         | 30 |
| オオウスバカゲロウ <i>Heoclisia japonica</i> (Hagen) (ウスバカゲロウ科) .....              | 31 |
| ハマゴウノメイガ <i>Herpetogramma albipennis</i> Inoue (ツトガ科) .....               | 32 |
| ナミコナフキクモバチ <i>Pompilus cinereus</i> (Fabricius) (クモバチ科) .....             | 33 |
| アカゴシクモバチ <i>Anoplius reflexus</i> (Smith) (クモバチ科) .....                   | 34 |
| フタオビアリバチ <i>Nemka wotani</i> (Zavattari) (アリバチ科) .....                    | 35 |
| オオモンツチバチ <i>Scolia histrionica japonica</i> Smith (ツチバチ科) .....           | 36 |
| ニッポンハナダカバチ <i>Bembix niponica</i> Smith (ジガバチ科) .....                     | 37 |
| ヤマトスナハキバチ <i>Bembecinus hungaricus</i> (Frivaldsky) (ジガバチ科) .....         | 38 |
| ヤマトヌカダカバチ <i>Tachysphex nigricolor</i> (Dalla Torre) (ジガバチ科) .....        | 39 |
| キヌゲハキリバチ <i>Magachile kobensis</i> Cockerell (ハキリバチ科) .....               | 40 |
| ホシトガリハナバチ <i>Coelioxys formosicola</i> Strand (ハキリバチ科) .....              | 41 |
| ヤマトイソユスリカ <i>Telmatogeton japonicus</i> Tokunaga (ユスリカ科) .....            | 42 |
| ヤマトツルギアブ <i>Dialineura albata</i> (Coquillett) (ツルギアブ科) .....             | 43 |
| タシマツルギアブ <i>Acrosathe tashimai</i> Nagatomi et Lyneborg (ツルギアブ科) .....    | 44 |
| ハマベコムシヒキ <i>Stichopogon infuscatus</i> Bezzi (ムシヒキアブ科) .....              | 45 |
| ヒラタムシヒキ <i>Clinopogon sauteri</i> Bezzi (ムシヒキアブ科) .....                   | 46 |

|   |    |
|---|----|
| スキバツリアブ <i>Villa limbata</i> (Coquillett) (ツリアブ科)                   | 47 |
| オガサワラツリアブ <i>Exhyalanthrax ogasawaraensis</i> (Matsumura) (ツリアブ科)   | 48 |
| ツマグロイソハナバエ <i>Fucellia apicalis</i> Kertesz (ハナバエ科)                 | 49 |
| ゴヘイニクバエ <i>Sarcophila japonica</i> Rohdendorf (ニクバエ科)               | 50 |
| ハネボシスナニクバエ <i>Phylloteles formosana</i> (Townsend) (ニクバエ科)          | 51 |
| イソニクバエ <i>Sarcophaga brevicornis</i> (Ho) (ニクバエ科)                   | 52 |
| エリザハンミヨウ <i>Cicindela elisae</i> Motschulsky (ハンミヨウ科)               | 53 |
| コハンミヨウ <i>Cicindela specularis</i> Chaudoir (ハンミヨウ科)                | 54 |
| ハラビロハンミヨウ <i>Lophyridia angulata niponensis</i> (Bates) (ハンミヨウ科)    | 55 |
| カワラハンミヨウ <i>Chaetodera laetescrpta</i> (Motschulsky) (ハンミヨウ科)       | 56 |
| ヒョウタンゴミムシ <i>Scarites aterrimus</i> Morawitz (オサムシ科)                | 57 |
| オオヒョウタンゴミムシ <i>Scarites sulcatus</i> Olivier (オサムシ科)                | 58 |
| オサムシモドキ <i>Craspedonotus tibialis</i> Sahaum (オサムシ科)                | 59 |
| ホソチビゴミムシ <i>Perileptus japonicus</i> Bates (オサムシ科)                  | 60 |
| イソチビゴミムシ <i>Thalassodualiis masidai</i> S. Ueno (オサムシ科)             | 61 |
| ヒラタコミズギワゴミムシ <i>Tachys exarata</i> (Bates) (オサムシ科)                  | 62 |
| ウミミズギワゴミムシ <i>Sakagutia marina</i> S.Ueno (オサムシ科)                   | 63 |
| コホソトビミズギワゴミムシ <i>Bembidion aeneipes</i> Bates (オサムシ科)               | 64 |
| チャイロチビゲンゴロウ <i>Liodessus megacephalus</i> (Gschwendtner) (ゲンゴロウ科)   | 65 |
| ヒメケシガムシ <i>Cercyon algarum</i> Sharp (ガムシ科)                         | 66 |
| コケシガムシ <i>Cercyon aptus</i> Sharp (ガムシ科)                            | 67 |
| フチトリケシガムシ <i>Cercyon dux</i> Sharp (ガムシ科)                           | 68 |
| カラカネハマベエンマムシ <i>Hypocaccus lewisii</i> (Schmidt) (エンマムシ科)           | 69 |
| ハマベエンマムシ <i>Hypocaccus varians</i> (Schmidt) (エンマムシ科)               | 70 |
| ツヤハマベエンマムシ <i>Eopachylopus ripae</i> (Lewis) (エンマムシ科)               | 71 |
| イズモコブセスジダルマガムシ <i>Ochthebius hayashii</i> Jäch et Delgado (ダルマガムシ科) | 72 |
| ハマベムクゲキノコムシ <i>Actinopteryx parallela</i> (Britten) (ムクゲキノコムシ科)     | 73 |
| オオツノハネカクシ <i>Bledius salsus</i> Miyatake (ハネカクシ科)                   | 74 |
| ウミベトガリハネカクシ <i>Medon prolixus</i> (Sharp) (ハネカクシ科)                  | 75 |
| ツヤウミベコガシラハネカクシ <i>Philonthus nudus</i> Sharp (ハネカクシ科)               | 76 |
| オオアバタウミベハネカクシ <i>Cafius vestitus</i> (Sharp) (ハネカクシ科)               | 77 |
| ホソアバタウミベハネカクシ <i>Cafius histrio</i> (Sharp) (ハネカクシ科)                | 78 |
| ヒラタアバタウミベハネカクシ <i>Cafius mimulus</i> (Sharp) (ハネカクシ科)               | 79 |
| ヒメアバタウミベハネカクシ <i>Cafius algarum</i> Sharp (ハネカクシ科)                  | 80 |
| アカバアバタウミベハネカクシ <i>Cafius rufescens</i> (Sharp) (ハネカクシ科)             | 81 |
| ツヤケシアカバウミベハネカクシ <i>Phucobius simulator</i> Sharp (ハネカクシ科)           | 82 |
| カタモンハネカクシ <i>Liusus hilleri</i> (Weise) (ハネカクシ科)                    | 83 |

|   |     |
|---|-----|
| ハヤマツヤケシヒゲブトハネカクシ <i>Aleochara hayamai</i> Yamamoto et Maruyama (ハネカクシ科) ……      | 84  |
| ホソセスジヒゲブトハネカクシ <i>Aleochara trisulcata</i> Weise (ハネカクシ科) ……                    | 85  |
| フトツヤケシヒゲブトハネカクシ <i>Aleochara squalithorax</i> Sharp (ハネカクシ科) ……                 | 86  |
| ウシオヒメハネカクシ <i>Adota magnipennis</i> (Bernhauer) (ハネカクシ科) ……                     | 87  |
| ヒゲナガヒメハネカクシ <i>Psammostiba hilleri</i> (Weise) (ハネカクシ科) ……                      | 88  |
| ホソナギサハネカクシ <i>Bryothinusa minuta</i> (Sawada) (ハネカクシ科) ……                       | 89  |
| ワカサイソハネカクシ <i>Halorhadinus inaequalis</i> Sawada (ハネカクシ科) ……                    | 90  |
| ウスチャイソハネカクシ <i>Halorhadinus masakazui</i> Ono et Maruyama (ハネカクシ科) ……           | 91  |
| ウスアカウミセミゾハネカクシ <i>Myrmecopora rufescens</i> (Sharp) (ハネカクシ科) ……                 | 92  |
| ウミセミゾハネカクシ <i>Myrmecopora algarum</i> (Sharp) (ハネカクシ科) ……                       | 93  |
| ヒラズイソアリヅカムシ <i>Physoplectus reikoe</i> (Sawada) ……                              | 94  |
| ニセセマルケシマグソコガネ <i>Psammodius maruyamai</i> Ochi, Kawahara et Inagaki (コガネムシ科) …… | 95  |
| ヤマトケシマグソコガネ <i>Leiopsammodius japonicus</i> (Harold) (コガネムシ科) ……                | 96  |
| ホソケシマグソコガネ <i>Trichiorhyssemus asperulus</i> (Waterhouse) (コガネムシ科) ……           | 97  |
| ニセマグソコガネ <i>Aegialia nitida</i> Waterhouse (コガネムシ科) ……                          | 98  |
| ババチビドロムシ <i>Babalimnichus masamii</i> M.Sato (チビドロムシ科) ……                       | 99  |
| ツシマヒメサビキコリ <i>Agrypnus tsushimensis</i> Ohira (コメツキムシ科) ……                      | 100 |
| スナサビキコリ <i>Meristhus niponensis</i> Lewis (コメツキムシ科) ……                          | 101 |
| アカアシコハナコメツキ <i>Paracardiophorus sequens</i> (Candeze) (コメツキムシ科) ……              | 102 |
| ルリキオビジョウカイモドキ <i>Intybia tokaraensis</i> (Nakane) (ジョウカイモドキ科) ……                | 103 |
| イソジョウカイモドキ <i>Laius asahinai</i> Nakane (ジョウカイモドキ科) ……                          | 104 |
| ハマヒョウタンゴミムシダマシ <i>Idisia ornata</i> Pascoe (ゴミムシダマシ科) ……                        | 105 |
| オオマルスナゴミムシダマシ <i>Phelopatrum scaphoides</i> (Marseul) (ゴミムシダマシ科) ……             | 106 |
| オオスナゴミムシダマシ <i>Gonocephalum pubens</i> Marseul (ゴミムシダマシ科) ……                    | 107 |
| マルチビゴミムシダマシ <i>Caedius marinus</i> Marseul (ゴミムシダマシ科) ……                        | 108 |
| ヒメホソハマベゴミムシダマシ <i>Micropedinus pallidipennis</i> Lewis (ゴミムシダマシ科) ……            | 109 |
| ヨツボシホソアリモドキ <i>Pseudoleptaleus valgipes</i> Marseul (アリモドキ科) ……                 | 110 |
| ホソアシチビイッカク <i>Mecynotarsus tenuipes</i> Champion (アリモドキ科) ……                    | 111 |
| スナムグリヒョウタンゾウムシ <i>Scepticus tigrinus</i> (Roelofs) (ゾウムシ科) ……                   | 112 |
| トビイロヒョウタンゾウムシ <i>Scepticus uniformis</i> Kono (ゾウムシ科) ……                        | 113 |

ハネカクシ科の和名は柴田ほか (2013) に従った。

ハマスズ *Dianemobius csikii* (Bolivar) (ヒバリモドキ科)



オス成虫。出雲市湖陵町，2014.7.8.



オス成虫の標本写真



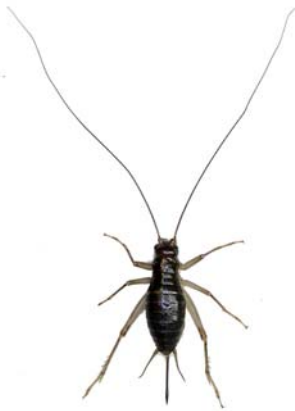
メス成虫。出雲市湖陵町，2014.7.8.

- 特 徴：**体長 6.7-7.4mm (村井・伊藤，2011)。生息地の砂地の色によく似た小型のコオロギ。メスの翅は短い。
- 生 態：**海浜植物帯を伴った砂浜に生息する。成虫は7月から晩秋まで見られる。内陸の河川敷にも生息することが知られているが、島根県内からは報告例がない。
- 県内分布：**本土（出雲，石見）。隠岐には生息していない可能性が高い。
- 文献記録：**矢代・市川（2002），林（2005a，2006b），島根県（2004，2014），林・大浜（2014）。

ナギサスズ *Caconemobius sazanami* (Furukawa) (ヒバリモドキ科)



オス成虫。松江市秋鹿町，2011.10.18.



メス成虫の標本写真



オス成虫。出雲市猪目町，2005.10.1.

**特 徴**：体長 9.9–10.3mm (村井・伊藤，2011)。成虫は無翅。体はほぼ黒色～暗褐色で，背面に明瞭な斑紋はない。

**生 態**：岩礁や礫浜に生息する。日中，礫浜を掘ると幼虫や成虫が見つかる。成虫は 8 月に出現し，夜間に岩の上を活発に動き回る。

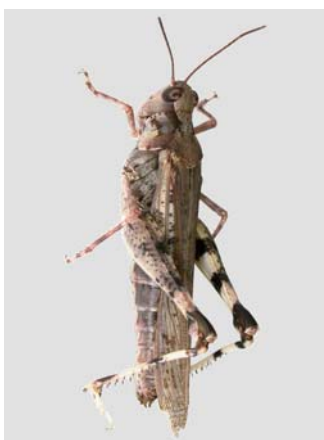
**県内分布**：本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後，中ノ島)。

**文献記録**：市川 (2002)，山田 (2004)，林 (2006b)，林ほか (2006)，林・大浜 (2014)。

ヤマトマダラバッタ *Epacromius japonicus* (Shiraki) (バッタ科)



オス成虫。出雲市大社町，2011.10.25.



成虫の標本写真



幼虫。出雲市湖陵町，2014.7.8.

**特 徴**：体長 30-35mm (村井・伊藤, 2011)。体色は生息地の砂地の色彩によく似ているが、緑色を帯びる個体も出現する。

**生 態**：海浜植生を伴う海岸砂丘に生息する。成虫は7月下旬から10月頃まで出現する。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。隠岐諸島には生息していない。

**文献記録**：林（2005a, 2006a, 2007a），島根県（2014）。

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus) (カマキリ科)



成虫。出雲市西園町，2014.8.31.



成虫の標本写真



成虫。出雲市西園町，2014.8.31.

- 特 徴：**体長 50-66mm (宮武・加納, 1992)。背面は淡緑色で、褐色型もいる。前基節の基部付近に楕円形の黒色紋があり、中央が白色のリング状斑紋と全体黒色の型がある。
- 生 態：**海岸や河川敷などの草地に生息する。島根県では少ない種であり、内陸の草原環境が減少している現状では、海岸砂丘の海浜植生帯は本種の重要な生息地である。
- 県内分布：**本土 (出雲, 石見)。隠岐諸島には生息していない可能性が高い。
- 文献記録：**中村・松田 (2000), 島根県 (2014), 本報告。

イソハサミムシ *Anisolabis seiroides* Nishikawa (ハサミムシ科)



成虫。出雲市多伎町，2011.5.4.



成虫の生体写真



成虫。出雲市坂浦町，2014.4.25.

**特 徴**：体長13-38mm (Nishikawa, 2008)。成虫は同所的にみられるハマベハサミムシよりも大型で，触角が長い。背面前方が赤褐色で後方が黒色の個体と，背面全体が黒色の個体もいる。鋏はほぼ直線的で内側に緩く湾曲している個体が多いが，鋏が強く湾曲した個体もいる。

**生 態**：海岸性種。主にレキ浜や岩礁に生息し，大きな石の下などにいる。

**県内分布**：本土（出雲），隠岐（中ノ島）。

**文献記録**：端山（2010a），島根県（2014），本報告。

ハマベハサミムシ *Anisolabis maritima* (Bonelli) (ハサミムシ科)



成虫。浜田市，2014.5.29.



成虫の標本写真



成虫。隠岐の島町，2014.5.22.

**特 徴：**全長 25mm 前後 (平嶋・森本，2008)。大型のハサミムシ。体色は黒色。

**生 態：**広生種で砂礫地だけでなく，畑や民家の庭などでも普通である。海岸の礫浜では潮間帯の礫間に多く生息する。砂浜では漂着物の下に多い。

**県内分布：**本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後，西ノ島，中ノ島，知夫里島)。

**文献記録：**広生種で県内各地から記録されている。隠岐諸島では主要 4 島で記録がある (西川・島田，2004；林・門脇，2013)。

**備 考：**別名はハサミムシ。

オオハサミムシ *Labidura riparia* (Pallas) (オオハサミムシ科)



成虫。浜田市，2012.10.11.



成虫の標本写真



成虫。浜田市，2012.10.11.

**特 徴：**全長 25-30mm (平嶋・森本, 2008)。大型のハサミムシ。体色は赤褐色で部分的に黒色。

**生 態：**内陸の砂礫地や海岸の砂浜などに生息する広生種。砂浜では、日中は流木など漂着物の下に隠れていることが多い。成虫は腹部を持ち上げて威嚇する。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後, 西ノ島, 中ノ島, 知夫里島)。

**文献記録：**広生種で県内各地から記録されている。隠岐諸島では主要 4 島で記録がある (西川・島田, 2004 ; 林・門脇, 2013)。

スナヨコバイ *Psammotettix kurilensis* Anufreiv (ヨコバイ科)



成虫。出雲市湖陵町，2012.8.27.



成虫の標本写真



成虫。浜田市，2012.10.11.

**特 徴：**体長3mm. 体色は生息地の砂の色をしている.

**生 態：**海岸性種. 海浜植物のコウボウムギが寄主である(紙谷, 2011). 島根県の砂浜でも夏から秋にコウボウムギの群落で成虫がみられる.

**県内分布：**本土(出雲, 石見). 本土の砂浜では広く生息している.

**文献記録：**本報告.

ウミミズカメムシ *Speovelia maritima* Esaki (ミズカメムシ科)



成虫。出雲市坂浦町，2014.7.21.



成虫の標本写真



幼虫。出雲市大社町，2014.4.9.

**特 徴**：体長3.0-4.5mm (林・宮本，2005)。体色は赤褐色または暗褐色。外骨格は硬い。成虫は無翅で、有翅型は知られていない。

**生 態**：海岸性種。礫浜の礫間や岩礁の石下などに生息している。淡水が流入する礫間に多く、他のミズカメムシ類と同様に水面を素早く歩くことができる。

**県内分布**：本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後，中ノ島)。

**文献記録**：長見 (1958)，林 (2007b)，島根県 (2004,2014)，端山 (2012a)。

ヒメマダラナガカメムシ *Graptostethus servus* (Fabricius) (ナガカメムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.9.5.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.9.5.

**特 徴：**体長 8mm 前後（安永ほか，1993）。背面は橙赤色で，前胸背や前翅の黒紋は変異が大きい。

**生 態：**ヒルガオ科植物が寄主で，海浜のハマヒルガオに多い（安永ほか，1993）。友国・林（2006）は，本種を「好海浜性」に分類している。島根県内では，海浜のハマヒルガオ群落で確認されている。

**県内分布：**本土（出雲，石見），隠岐（知夫里島）。

**文献記録：**島根県（2014），本報告。

スナコバネナガカメムシ *Blissus hirtulus* Burmeister (ナガカメムシ科)



成虫。大田市温泉津，2014.5.8.



成虫の標本写真



成虫。大田市温泉津，2014.5.8.

**特 徴**：体長4mm 前後（安永ほか，1993）。体は長楕円形で，周囲に長毛が密生する。

**生 態**：河川敷や海浜などの砂地に生息する広生種（安永ほか，1993）。友国・林（2006）は，本種を「真海浜性」に分類している。

**県内分布**：本土（石見）。

**文献記録**：本報告。

ヒメオオメカメムシ *Geocoris proteus* Distant (ナガカメムシ科)



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.



成虫の標本写真



交尾。出雲市湖陵町，2012.8.27.

**特 徴**：体長3mm前後（安永ほか，1993）。体は長楕円形で，複眼が大きく，左右に突出する。

**生 態**：河川敷や海浜などの砂地に生息する広生種（安永ほか，1993）。友国・林（2006）は，本種を「好海浜性」に分類している。鳥根県の砂浜においても，もっともよく見られる半翅類である。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：海岸からの記録は少ないが，内陸からは中村ほか（2001）などの報告がある。

サビヒョウタンナガカメムシ *Horridipamera inconspicua* (Dallas) (ナガカメムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.9.5.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.9.5.

**特 徴**：体長 4.8–5.8mm 前後（安永ほか，1993）．前胸背，小楯板，前翅は直立する長毛を欠き，平伏した軟毛だけがある（安永ほか，1993）．

**生 態**：草地に生息する（安永ほか，1993）．友国・林（2006）は，本種がヒョウタンナガカメムシ類の中で海浜性の傾向がもっとも強いとし，「好海浜性」に分類している．

**県内分布**：本土（出雲，石見）．

**文献記録**：海岸からの記録は少ないが，内陸の河川敷からは中村・松田（2000）や中村ほか（2001）などの報告がある．

イチゴチビナガカメムシ *Stigmatonotum geniculatum* (Motschlsky) (ナガカメムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.9.7.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.9.7.

**特 徴：**体長 3.3-4mm (石川ほか, 2012)。触角の 1 節と 4 節が黒い。

**生 態：**普通種であり，砂浜の海浜植物の根際に特に多い (石川ほか, 2012)。友国・林 (2006) は，「好海浜性」に分類している。

**県内分布：**本土 (出雲)。

**文献記録：**海岸からの記録は少ないが，淀江ほか (1998) は宍道湖岸や大橋川から記録している。このほか内陸の河川敷からは，近木 (1997) や淀江ほか (2000) などの報告がある。

ハマベナガカメムシ *Peritrechus femoralis* Kerzhner (ナガカメムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.9.7.



成虫。同上



種子から吸汁する成虫。飼育。

**特 徴**：体長 4.3–5.5mm (石川ほか, 2012)。前胸背のくびれがほとんど認められない。

**生 態**：河口や海浜の砂地の草間に生息する (石川ほか, 2012)。友国・林 (2006) は、本種を「真海浜性」に分類している。

**県内分布**：本土 (出雲)。県内では河口のほか、斐伊川水系の内陸部の河川敷からも記録されている (島根県, 2014)。生息地での個体数は少ない。全国的な希少種である。

**文献記録**：島根県 (2014)。

**備 考**：飼育条件下において、生息地のアキノエノコログサの穂より採集した種子を与えたところ、吸汁することが確認されている。

ハマベツチカメムシ *Byrsinus varians* (Fabricius) (ツチカメムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.17.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.16.

**特 徴**：体長 3.4-4.5mm (石川ほか, 2012)。体は赤褐色で部分的に黒色。体の周囲には長毛が生える。脛節には長毛が多数生えている。

**生 態**：海岸性種。砂浜の海浜植物帯に生息する。植物の根際に生息し、篩い掛けによって発見できる。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（島後）。

**文献記録**：中蘭（2004），島根県（2004，2014）。隠岐では 2014 年に初めて確認された。

ブチヒゲカメムシ *Dolycoris baccarum* (Linnaeus) (カメムシ科)



ケカモノハシ上の成虫。出雲市湖陵町，2014.8.12.



成虫の標本写真



コウボウムギ上の成虫。出雲市湖陵町，2014.5.16.

**特 徴：**体長 10-14mm (安永ほか, 1993)。背面は紫色を帯びた褐色で，全体を軟毛が覆う。

**生 態：**多種の植物を寄主とする広生種。海浜では，コウボウムギ (カヤツリグサ科) やケカモノハシ (イネ科) の上でよく見られる。ハマボウフウの花からも記録されている (皆木ほか, 2000)。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見)。

**文献記録：**皆木ほか (2000)。

**備 考：**本種に寄生することが知られているアカヒョウタンハリバエ (本多, 1985) も海浜で確認されている。

ハマベウスバカゲロウ *Myrmeleon solers* Walker (ウスバカゲロウ科)



幼虫。大田市温泉津，2013.7.22.



成虫の標本写真



幼虫の巣。出雲市湖陵町，2012.10.11.

**特 徴**：成虫の前翅長 27mm 内外（平嶋・森本，2008）。幼虫の体色は全体に白く，頭部に一對の四角形の黒色斑紋がある。

**生 態**：幼虫は，自然度の高い砂浜において，海浜植生帯付近の地表にすり鉢型の巣を造る。成虫は梅雨後半の頃に出現し，夜行性。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：鶴崎（2008），林（2012a，2013b），吉富ほか（2013），島根県（2014）。

クロコウスバカゲロウ *Myrmeleon bore* Tjeder (ウスバカゲロウ科)



幼虫。出雲市大社町，2011.11.7.



成虫の生体写真



幼虫の巣。出雲市大社町，2012.6.3.

**特 徴：**幼虫の体色はハマベウスバカゲロウに比べて黒く，頭部前方にはやや複雑な形の斑紋がある。

**生 態：**幼虫は砂地に生息する造巢性種。海岸砂丘や内陸の砂丘，河川敷にも生息する。海岸では，ハマベウスバカゲロウよりも陸側に生息する傾向があり，クロマツの根元や人工物の陰だけでなく，水はけの良い斜面にも造巢する。同所的にオオウスバカゲロウやカスリウスバカゲロウの幼虫も生息していることが多い。

**県内分布：**本土（出雲，石見），隠岐（島後）。

**文献記録：**鶴崎（2008），林（2012a，2013b），吉富ほか（2013）。

コカスリウスバカゲロウ *Distoleon nigricans* (Okamoto) (ウスバカゲロウ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.5.16.



成虫の標本写真



成虫。浜田市，2014.5.29.

- 特 徴：**幼虫は眼が前側方に突出する。頭部は縦長で、その下面は白く、前方中央に一对の斑紋がある。
- 生 態：**幼虫は砂地に生息し、巣は造らずに浅く砂にもぐって獲物を待ち伏せる。海岸砂丘や内陸の砂丘などに生息する。造巢性種の幼虫が後方に進むことしかできないのに対し、非造巢性種は前方へ向かって通常の歩行ができる。

**県内分布：**本土（出雲，石見），隠岐（島後，西ノ島）。

**文献記録：**鶴崎（2008），林（2012a，2013b），吉富ほか（2013）。

オオウスバカゲロウ *Heoclisis japonica* (Hagen) (ウスバカゲロウ科)



幼虫。益田市喜阿弥町，2014.8.28.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2011.10.25.

**特 徴：**成虫の前翅長 60mm 内外 (平嶋・森本，2008)。幼虫は他のウスバカゲロウ科と比べてきわめて大型。体色は全体に白く，大顎の前方 2/3 が黒く，基部側は褐色。

**生 態：**幼虫は砂地に生息し，巣は造らずに浅く砂にもぐって獲物を待ち伏せる。海岸砂丘や内陸の砂丘などに生息する。河川沿いなど内陸にも生息する種であるが，近年，全国的に内陸での生息はほとんど確認されていない。島根県では，良好な環境の砂浜が多いため，本種の海岸沿いの生息地は複数確認されている。

**県内分布：**本土 (出雲，石見)。

**文献記録：**鶴崎 (2008)，林 (2012a，2013b)，吉富ほか (2013)。

ハマゴウノメイガ *Herpetogramma albipennis* Inoue (ツトガ科)



幼虫。出雲市西園町，2014.8.31.



幼虫。同上。



成虫の標本写真

**特 徴：**成虫の開張は11-18mm (那須ほか, 2013)。翅は明るい白色で、同心円状細く乱れた暗色斑紋がある。前翅の前縁は暗色。終齢幼虫は淡緑色で円形の小さな黒色斑点がある。

**生 態：**寄主はハマゴウで、ハマゴウの群落に生息する。幼虫は花弁や蕾、未熟な果実を食べる。成虫はハマゴウの花が咲く時期に出現する。島根県の海岸では、成虫は8月下旬になるとほとんど見られなくなるが、幼虫は花が終わった後の未熟な果実を食べる個体が観察された。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (西ノ島)。

**文献記録：**松田 (2012), 林ほか (2012), 島根県 (2014)。

ナミコナフキクモバチ *Pompilus cinereus* (Fabricius) (クモバチ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.8.11.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.8.11.

**特 徴**：体長4-14mm（平嶋・森本，2008）。体には灰色の微毛が密生し，腹部は黒色の縞模様がある。脛節の距は白色。翅は透明で，前翅の先端は暗色。

**生 態**：海浜や川辺の砂地に生息する広生種。クモを狩る。斎藤（2004）は本種を「海浜種」に分類している。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：本報告。

**備 考**：別名にナミコナフキベッコウ・ハイイロベッコウ・ハイイロクモバチがある。

アカゴシクモバチ *Anoplius reflexus* (Smith) (クモバチ科)



成虫。出雲市浜山町，2014.6.29.



成虫の標本写真



アカヒョウタンハリバエ。出雲市大社町，2004.7.31.

**特 徴**：体長6-14mm（平嶋・森本，2008）。体は黒色で，腹部の基部の2節が赤褐色をしている。海浜に多いヤドリバエ科のアカヒョウタンハリバエは，本種に体色が似ている。

**生 態**：海浜に生息し，海浜植物の周辺を飛び回る。クモを狩る。斎藤（2004）は本種を「海浜種」に分類している。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：皆木ほか（2000）。

**備 考**：別名にアカゴシベッコウがある。

フタオビアリバチ *Nemka wotani* (Zavattari) (アリバチ科)



メス成虫。出雲市湖陵町，2014.8.12.



オス成虫の標本写真



オス成虫。出雲市湖陵町，2014.8.12.

**特 徴：**メスの体長7-8mm，オスの体長9-15mm（寺山ほか，2011）。メスは無翅で胸部が赤く，腹部は黒く，いびつな円形の白色斑紋と2本の白帯がある。よく似たルイスヒトホシアリバチとは基部側の白帯は幅が広いことで区別できる（寺山ほか，2011）。オスは有翅で腹部の前半が赤い。

**生 態：**メスは海浜植生帯の地表や植物上を歩き回る。オスは海浜植物の周辺を飛び回る。出雲市湖陵町の外圍海岸では多くの成虫が観察された。

**県内分布：**本土（出雲）。

**文献記録：**本報告。

オオモンツチバチ *Scolia histrionica japonica* Smith (ツチバチ科)



メス成虫。出雲市湖陵町，2014.8.21.



成虫の標本写真



砂に潜るメス。出雲市湖陵町，2014.8.21.

**特 徴：**体長 10-25mm (寺山・長瀬，2007)。雌雄共に腹部 1・2 節の黄色紋は左右に分離しており，胸部背面にも黄色紋がある。オスの胸部背面の黄色紋は顕著である。メスの複眼後方には細い黄色紋があり，オスにもあるが，消失する個体もある。

**生 態：**砂地に生息する広生種。海浜では，海浜植物帯の砂中に生息するコガネムシ類の幼虫に寄生する。メスは砂に潜ってコガネムシ類の幼虫を探す。

**県内分布：**本土 (出雲)。

**文献記録：**皆木ほか (2000)，前田ほか (2004)。

**備 考：**島根県の海浜にはハラナガ・ヒメハラナガ・コモンツチバチも生息する。

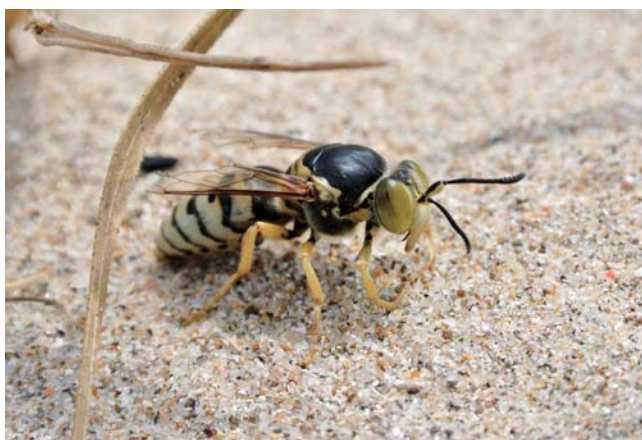
ニッポンハナダカバチ *Bembix niponica* Smith (ジガバチ科)



成虫。大田市，2013.7.22.



成虫の標本写真



成虫。大田市，2013.7.22.

- 特 徴**：体長 20-23mm (平嶋・森本, 2008)。胸部背面は黒色で、腹部は淡緑色と黒色の縞模様がある。
- 生 態**：砂地に坑道を掘って営巣する。鳥根県内では海岸砂丘や内陸の砂丘、河川敷などで確認されている。ハナアブなどの双翅類を狩る。
- 県内分布**：本土 (出雲, 石見)。
- 文献記録**：中村ほか (2001), 鳥根県 (2004, 2014)。

ヤマトスナハキバチ *Bembecinus hungaricus* (Frivaldsky) (ジガバチ科)



成虫。出雲市斐川町，2014.6.25.



成虫の標本写真



成虫。出雲市斐川町，2014.6.25.

**特 徴**：体長 12mm 内外 (平嶋・森本, 2008)。全体に黒色で，腹部に黄色の斑紋がある。

**生 態**：砂地に坑道を掘って営巣する。島根県内では海岸砂丘や丘陵地の公園，河川敷などで確認されている。ヨコバイなどの半翅類を狩る。斎藤 (2004) は本種を「海浜種」に分類している。

**県内分布**：本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後)。

**文献記録**：皆木ほか (2000)，島根県 (2004，2014)，中村・松田 (2005)。

ヤマトヌカダカバチ *Tachysphex nigricolor* (Dalla Torre) (ジガバチ科)



成虫。浜田市，2014.5.29.



メス成虫の標本写真



成虫と獲物のショウリョウバッタ。浜田市，2014.5.29.

**特 徴：**体長9mm内外（平嶋・森本，2008）。全体に黒色で，斑紋はない。

**生 態：**砂地に坑道を掘って営巣する。鳥根県内では海岸砂丘や丘陵地などで確認されている。バッタなどの直翅類を狩る。

**県内分布：**本土（出雲，石見）。

**文献記録：**皆木ほか（2000）。

キヌゲハキリバチ *Magachile kobensis* Cockerell (ハキリバチ科)



成虫。出雲市大社町，2004.7.31.



メス成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2004.7.25.

- 特 徴**：体長 10-13mm 内外 (多田内・村尾, 2014)。全体に黒色で、白色毛が密生し、横帯を形成する。
- 生 態**：成虫は夏に出現し、海岸のハマゴウに訪花することが知られている (前田ほか, 2004)。斎藤 (2004) は本種を「海浜種」に分類している。
- 県内分布**：本土 (出雲, 石見)。
- 文献記録**：皆木ほか (2000), 前田ほか (2004), 島根県 (2004, 2014)。

ホシトガリハナバチ *Coelioxys formosicola* Strand (ハキリバチ科)



オス成虫。江津市，2013.7.22.



オス成虫の標本写真



オス成虫。江津市，2013.7.22.

**特 徴**：体長8-10mm (多田内・村尾，2014)。胸部背面に4紋がある。オスの腹端には8本のトゲがあり，メスは先端が尖る。

**生 態**：キヌゲハキリバチの労働寄生者であり，寄主の生息地にみられる (島根県，2014)。斎藤 (2004) は本種を「海浜種」に分類している。

**県内分布**：本土 (出雲，石見)。

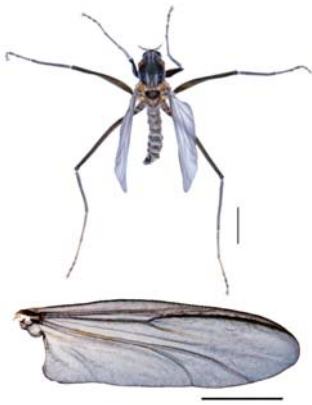
**文献記録**：皆木ほか (2000)，前田ほか (2004)，島根県 (2004，2014)。

**備 考**：県内の記録はすべてチビトガリハナバチの和名で記録されている。

ヤマトイソユスリカ *Telmatogeton japonicus* Tokunaga (ユスリカ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2009.4.7.

**特 徴：**オス成長の体長は3.5-4.5mm（日本ユスリカ研究会，2010）。翅脈の形状（RM と FCu の位置関係）により，ミナミイソユスリカと区別できる。

**生 態：**幼虫は潮間帯に生息する。島根県の海岸では，春の干潮時に岩礁の海藻に多数の成虫が出現する。島根県では，細澤・星川（2001）により，鹿島町（現在の松江市鹿島町）の海岸における生活史が報告されている。

**県内分布：**本土（出雲）。

**文献記録：**細澤・星川（2001）。

ヤマトツルギアブ *Dialineura albata* (Coquillett) (ツルギアブ科)



オス成虫。大田市温泉津，2014.5.8.



オス成虫の標本写真



オス成虫。大田市温泉津，2014.5.8.

**特 徴：**体長7.9-10.7mm (永富・大石, 2000)。前翅はやや幅広く、翅脈は褐色。前縁中央付近に暗褐色の斑紋がある。写真の個体はすべてオスで、左右の複眼が近接するが、メスでは離れている。また、メスは腹部に黒色の斑紋がある。

**生 態：**海岸だけでなく内陸にも生息する。砂地を好む種とみられる。鳥根県内では、これまでの観察例がほとんどない。本種の生態や分布に関する情報としては、篠木 (2011) の報告がある。

**県内分布：**本土 (石見)。

**文献記録：**本報告。

タシマツルギアブ *Acrosathe tashimai* Nagatomi et Lyneborg (ツルギアブ科)



オス成虫。隠岐の島町布施，2014.5.22.



成虫の標本写真



メス成虫。出雲市湖陵町，2014.7.8.

**特 徴：**体長7.6-10.9mm (永富・大石，2000)。オスは付属肢を除く全身が白色の毛に覆われる。メスは胸部および腹部に明瞭な斑紋があり，胸部は縦縞，腹部は黒紋がある。腹部第5節の黒紋は台形。島根県の砂浜には，ヨシコツルギアブなど，よく似た種が海浜に生息している。

**生 態：**自然度の高い海浜に生息する。成虫は春から夏に出現する。

**県内分布：**本土（出雲，石見），隠岐（島後）。

**文献記録：**林ほか（2013），本報告。

ハマベコムシヒキ *Stichopogon infuscatus* Bezzi (ムシヒキアブ科)



オス成虫. 大田市鳥井町, 2013.6.22.



成虫の標本写真



メス成虫. 大田市鳥井町, 2013.6.22.

**特 徴**：体長 5.2–8.1mm (Nagatomi, 1983). 非常に小型なムシヒキアブ。オスは青色，メスは黄色を帯びる。

**生 態**：海浜に生息し，小型の昆虫を捕獲する。メスは砂に腹部を差し込むことから，砂中に産卵していると考えられる。成虫は，春から夏にかけて出現し，個体数も多い。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（島後）。

**文献記録**：林ほか（2013）。

ヒラタムシヒキ *Clinopogon sauteri* Bezzi (ムシヒキアブ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.8.11.



メス成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.8.11.

**特 徴**：体長 14-17mm (大石・乙部, 2003)。雌雄共に全体が青白い微毛に覆われ、やや不明瞭な斑紋がある。

**生 態**：自然度の高い砂浜海岸に生息する。海浜性のハマベコムシヒキに比べ、個体数はとても少ない。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見)。

**文献記録**：本報告。

スキバツリアブ *Villa limbata* (Coquillett) (ツリアブ科)



成虫。浜田市，2014.5.29.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.6.20.

**特 徴**：体長 10-16mm (平嶋・森本, 2008)。体は黒色で腹部には黄色毛からなる帯がある。前翅はほぼ透明で、前縁に暗色の細い帯がある。

**生 態**：内陸にも生息する種であるが、海岸でも多く、各種花を訪れる。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見)。

**文献記録**：皆木ほか (2000), 前田ほか (2004)。海岸以外の場所からも複数の記録がある。

オガサワラツリアブ *Exhyalanthrax ogasawaraensis* (Matsumura) (ツリアブ科)



成虫。浜田市，2014.5.29.



成虫の標本写真



産卵する成虫。益田市，2012.7.26.

**特 徴**：体長5mm 前後。スキバツリアブに似ているが、より小型で前翅基部から前縁に幅広い黒色部がある。また、腹部には褐色と白色の毛からなる帯がある。

**生 態**：砂浜において、活発に飛翔し、花や砂の上などで静止する。スキバツリアブと同時にみられることが多い。

**県内分布**：本土（石見）。

**文献記録**：本報告。

ツマガロイソハナバエ *Fucellia apicalis* Kertesz (ハナバエ科)



オス成虫. 松江市島根町, 2014.4.8.



オス成虫の標本写真



オス成虫. 出雲市坂浦町, 2014.4.25.

**特 徴**：体長4-6mm (平嶋・森本, 2008)。オスの前翅先端には顕著な丸い斑紋がある。

**生 態**：海岸性種。砂浜や岩礁などに普通。

**県内分布**：本土 (出雲), 隠岐 (島後, 西ノ島)。県内各地の砂浜に生息している。

**文献記録**：林ほか (2013)。

**備 考**：別名はノトツマガロイソバエ。

ゴヘイニクバエ *Sarcophila japonica* Rohdendorf (ニクバエ科)



オス成虫。浜田市久代町，2014.8.28.



オス成虫の標本写真



オス成虫。浜田市久代町，2014.8.28.

**特 徴：**体長4.5-8mm (古田, 2005). 小型のニクバエで，背面は全体に明るい灰色で，胸部背面の縦縞はやや不明瞭．腹部背面の各節には縦長の三角形の黒紋が3つ並び，中央の黒紋がもっとも大きい．オスの腹部末端はイソニクバエなどのニクバエ類とは大きく構造が異なり，横から見ると切断状に見える．

**生 態：**自然度の高い砂浜の海浜植生帯に生息する．成虫は魚の死体などに誘引される．

**県内分布：**本土 (石見)．

**文献記録：**柿沼 (2009a)，本報告．

ハネボシスナニクバエ *Phylloteles formosana* (Townsend) (ニクバエ科)



オス成虫. 出雲市湖陵町, 2014.6.20.



オス成虫の標本写真



メス成虫. 出雲市湖陵町, 2014.6.20.

**特 徴**：体長5mm前後。オスの翅先には薄い4紋がある。メスの翅にはこの紋がない。

**生 態**：内陸にも生息する広生種。鳥根県本土の自然度の高い砂浜海岸では普通で、魚介類の臭いに誘引されるほか、昆虫の死体にも集まり、植物上でも見られる。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：柿沼（2010），本報告。

イソニクバエ *Sarcophaga brevicornis* (Ho) (ニクバエ科)



成虫。出雲市河下町，2014.4.12.



オス成虫の標本写真



成虫。出雲市河下町，2014.4.3.

**特 徴**：体長約7-10mm。胸部背面の縦縞と腹部の市松模様は明瞭。海浜にはよく似たニクバエ類が生息しているため、同定を行うにはオスの交尾器を確認する必要がある。

**生 態**：内陸にも生息する広生種。島根県本土の砂浜海岸ではもっとも良く見られる普通種で、魚介類の腐敗臭に強く誘引される。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：柿沼（2010）。

エリザハンミョウ *Cicindela elisae* Motschulsky (ハンミョウ科)



成虫。出雲市大社町，2014.6.20.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.6.20.

**特 徴**：体長9-11mm（上野ほか，1985）。島根県内でみられるハンミョウ科の種ではもっとも小型。上翅の模様は細く曲がった形状をしている。

**生 態**：河口水辺の湿った砂の上に多い。日中は活発に動き回る。近づくと飛んで逃げる。内陸にも生息する。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（島後）。県内各地の河口。

**文献記録**：八幡（1998），山本（2005），河上・林（2007），林ほか（2013）。

コハンミヨウ *Cicindela specularis* Chaudoir (ハンミヨウ科)



成虫。浜田市，2012.7.25.



成虫の標本写真



成虫。浜田市，2004.7.19.

**特 徴：**体長 11-13mm (上野ほか, 1985)。エリザハンミヨウより一回り大きい。模様もエリザハンミヨウに似ているが、上翅中央付近で白い斑紋は途切れていることが多い。雌の上翅基部には、黒く光沢のある斑紋がある。背面は暗色のため、砂浜にいる個体はだいぶ黒く見える。

**生 態：**水辺の湿った砂の上にいる。日中は活発に動き回る。近づくと飛んで逃げる。内陸にも生息する。エリザハンミヨウと同所的に観察されるが、本種の方が個体数は少ない。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後, 中ノ島)。

**文献記録：**山本 (2005)。

ハラビロハンミョウ *Lophyridia angulata niponensis* (Bates) (ハンミョウ科)



成虫。石見地方，2004.8.22.



成虫の標本写真



交尾中のペア。石見地方，2006.6.11

**特 徴**：体長 12-14mm (上野ほか, 1985)。大型のハンミョウ。模様はコハンミョウやエリザハンミョウに似ているが、斑紋は太い。メスでは上翅側面の中央付近が張り出している。

**生 態**：海岸性種。河口の湿った砂の上にいる。時間帯により植生帯の中にもいることもある。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見)。出雲地方では絶滅した可能性が高い。隠岐には分布しない。

**文献記録**：鳥根県 (2004, 2014), Satoh *et al.* (2004), 山本 (2005)。

カワラハンミョウ *Chaetodera laetescripta* (Motschulsky) (ハンミョウ科)



成虫。石見地方，2013.7.22.



成虫の標本写真



成虫。石見地方，2012.7.15.

**特 徴：**体長 14-17mm (上野ほか, 1985)。大型のハンミョウ。模様は特徴的で白色部の面積が大きい。暗色部の面積は生息地によって変異がある。

**生 態：**内陸の河川敷や河口域に生息する広生種。ハラビロハンミョウに比べて水辺から離れた場所に生息し、乾いた砂の上をすばやく歩行する。

**県内分布：**本土 (石見)。現存する生息地は数カ所のみ。

**文献記録：**島根県 (2004, 2014), 山本 (2005)。

**備 考：**島根県内では「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」により、採集が禁止されている (平成 24 年 3 月 6 日指定)。

ヒョウタンゴミムシ *Scarites aterrimus* Morawitz (オサムシ科)



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.



成虫の標本写真



砂に潜る成虫。出雲市大社町，2014.4.19.

**特 徴：**体長 15-20mm (上野ほか, 1985)。ナガヒョウタンゴミムシに似ているが、前胸背板が明らかに広く、容易に区別できる。

**生 態：**海岸性種。海浜植生帯を伴う砂浜に生息し、日中は砂の中や漂着物の下に潜んでいる。成虫が野外で見られる時期は3月下旬から11月頃まで。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後, 西ノ島)。県内各地の砂浜に生息している。

**文献記録：**野津 (1978), 石谷・門脇 (2000), 河上・稲畑 (2001), 島根県 (2004, 2014), 河上・林 (2007), 端山 (2010d), 林 (2013a)。

オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* Olivier (オサムシ科)



成虫。出雲市大社町，2004.7.25.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2013.7.9.

**特 徴**：体長 28-38mm (上野ほか, 1985)。非常に大型なゴミムシで、大顎を含めると 50mm ほどの個体もある。大きさと特徴的な形態から容易に同定できる。

**生 態**：内陸にも生息する広生種。砂丘などに生息する。道路側溝の堆積物下からみつかることが多い。飼育下では、成虫は夜行性でコガネムシの成虫を捕食した。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見)。

**文献記録**：祐源 (1934), 板倉 (1970), 野津 (1978), 尾原 (1989), 尾原 (1992), 亀山ほか (2009), 石谷・門脇 (2000), 河上・稲畑 (2001), 島根県 (2004, 2014), 林 (2006d), 端山 (2012b)。

オサムシモドキ *Craspedonotus tibialis* Scahaum (オサムシ科)



成虫。浜田市，2014.5.28.



成虫の標本写真



オカダンゴムシを捕食する成虫，大社町，2003.9.27.

**特 徴：**体長 20-24mm (上野ほか, 1985)。大型のゴミムシでハート型に似た前胸背板を持つ。全体に黒いが、すべての脛節は全体に黄褐色。

**生 態：**内陸にも生息する広生種であるが、砂丘周辺など海岸部に多い。成虫は夜行性で、夜間に地表を徘徊する。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見)。

**文献記録：**石谷・門脇 (2000), 河上・林 (2007), 林 (2013a)。

ホソチビゴミムシ *Perileptus japonicus* Bates (オサムシ科)



成虫。鳥取県大山町，2014.5.11.



成虫の標本写真



成虫。鳥取県大山町，2014.5.11.

**特 徴**：体長 2.5-2.9mm (上野ほか, 1985)。微小なゴミムシ。触角が長く、複眼が大きく目立つ。前胸背板は逆台形で基部側方が弧状に曲がっている。背面は平坦。

**生 態**：平地の河川敷などに生息する広生種。河口の砂浜や砂礫地にもみられることが多い。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後)。

**文献記録**：河上・林 (2007)。

イソチビゴミムシ *Thalassoduvallius masidai* S. Ueno (オサムシ科)



成虫。出雲市坂浦町，2014.6.16.



成虫の標本写真



潜水する成虫。出雲市坂浦町，2014.6.16.

**特 徴：**体長4.6-4.9mm (Ueno, 1956)。全体に褐色。頭部が大きく、前胸背板より少し狭い程度。複眼は退化しない。左右上翅は丸味が強く、条溝は深く明瞭。

**生 態：**海岸性種。岩礁地のレキの隙間に生息する。後背地の崖から淡水が染み出す場所で、レキ間に陸から供給された泥が少しあるような環境で確認した例が多い。

**県内分布：**本土（出雲，石見）。隠岐では未確認だが、生息している可能性がある。

**模式産地：**島根県内がホロタイプの産地（浜田市周布川河口）である。

**文献記録：**Ueno (1956)，島根県 (2004, 2014)，河上・林 (2007)。

ヒラタコミズギワゴミムシ *Tachys exarata* (Bates) (オサムシ科)



成虫。出雲市猪目町，2014.7.21.



成虫の標本写真



成虫。出雲市猪目町，2014.7.21.

**特 徴：**体長 2.5mm 内外（上野ほか，1985）。背面は黒色で平坦。上翅の斑紋は不明瞭。上翅の条溝は側方と翅端で消失するが、翅端中央部に顕著な溝がある。孔点は各上翅に 2 個。

**生 態：**一般に川辺に生息する。湿った砂地や礫間に生息し、日中は漂着物の下に潜んでいる。猪目川の河口では、波打ち際に複数の個体が生息していた。

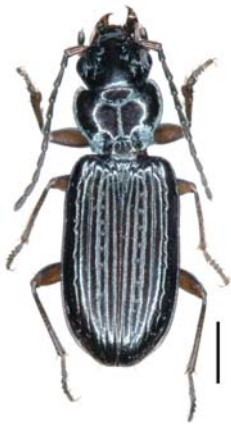
**県内分布：**本土（出雲，石見）。

**文献記録：**河上・林（2007）。

ウミミズギワゴミムシ *Sakagutia marina* S.Ueno (オサムシ科)



成虫。出雲市唐川町，2014.5.6.



成虫の標本写真



成虫。出雲市唐川町，2014.5.6.

**特 徴**：体長 5.0mm 内外（上野ほか，1985）。背面は黒色で金属光沢がある。触角が長い。上翅の点刻を伴った条線がある。

**生 態**：海岸性種。県内ではレキ混じりの砂浜や河口の転石下で確認されている。また，パントラップで採集されたことが報告されている（端山，2010b）。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：端山（2010b），鳥根県（2014），本報告。

コホソトビミズギワゴミムシ *Bembidion aeneipes* Bates (オサムシ科)



成虫。松江市美保関町，2014.4.8.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2012.7.26.

**特 徴：**背面は赤味を帯びた金銅色。体形は細く，表面は微細な印刻に覆われる。

**生 態：**河口の湿った砂地をすばやく動き回る。本種は海岸性種ではないが，島根県では河口の砂浜のみで確認されている。成虫は4月から10月頃まで出現する。

**県内分布：**本土（出雲，石見），隠岐（島後）。

**文献記録：**河上・林（2007），林ほか（2013）。河上・林（2007）が記録したホソトビミズギワゴミムシは本種の誤同定。

チャイロチビゲンゴロウ *Liodesus megacephalus* (Gschwendtner) (ゲンゴロウ科)



成虫。隠岐の島町，2014.7.13.



成虫の標本写真



成虫。隠岐の島町，2014.7.13.

**特 徴：**体長 2.6-3.4mm (上野ほか, 1985)。チビゲンゴロウに比べて明らかに大型。背面は黄褐色で上翅に暗色の斑紋がある。

**生 態：**海岸性種。岩礁地帯の雨水や湧水のとまった水たまりに生息する。一般に生息している場所の水質は悪く、大量のカ科の幼虫が生息していることが多い。まれに内陸部でもみつかることがあるが、本種の移動能力の高さを示しているものと考えられる。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後), 高島。

**文献記録：**秋山 (1995), 大浜 (2001), 林・島田 (2005), 島田ほか (2005), 林ほか (2006), 河上・林 (2007)。

ヒメケシガムシ *Cercyon algarum* Sharp (ガムシ科)



成虫。出雲市河下町，2014.4.12.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2014.4.3.

**特 徴**：体長2.6-2.8mm (Ohara and Jia, 2006). 小型で黒色。体形はやや細い。中胸腹板突起は水滴形。  
**生 態**：海岸性種。主にレキ浜や岩礁に生息し，腐敗した漂着海藻に集まる。砂浜にも生息するが少ない。  
**県内分布**：本土（出雲），隠岐（島後，西ノ島，中ノ島，知夫里島）。  
**文献記録**：河上・林（2007），河上ほか（2009），林（2012b），林ほか（2013）。

コケシガムシ *Cercyon aptus* Sharp (ガムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.19.



成虫の標本写真



砂に潜る成虫。出雲市大社町，2014.4.17.

**特 徴**：体長 3.1-3.7mm (上野ほか, 1985). 一般に小型で上翅は黄褐色 (新成虫は白い) だが, 変異がある. 中胸腹板突起は細長い五角形.

**生 態**：海岸性種. 主に砂浜に生息し, 腐敗した漂着海藻に集まる. 幼虫はやや古くなった海藻下からみつかるとは, 少ない.

**県内分布**：本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後).

**文献記録**：河上・稲畑 (2001), 河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 林・端山 (2009), 端山 (2010d), 林 (2012b), 林ほか (2013), 林 (2013a).

フチトリケシガムシ *Cercyon dux* Sharp (ガムシ科)



黄褐色の成虫。出雲市坂浦町，2014.4.3.



成虫の標本写真



黒色の成虫。出雲市湖陵町，2011.5.4.

**特 徴：**体長3.7-4.2mm (上野ほか, 1985). 海岸性ケシガムシ属の中でもっとも大型。黒色または黄褐色で変異がある。上翅の外縁に黄褐色の縁取りがある個体もいる。中胸腹板突起は細長く、その両側縁はほぼ平行。

**生 態：**海岸性種。レキ浜や岩礁に生息し、腐敗した漂着海藻に集まる。

**県内分布：**本土 (出雲), 隠岐 (島後, 西ノ島, 中ノ島, 知夫里島)。

**文献記録：**河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 端山 (2010d), 林 (2012b), 林ほか (2013)。

カラカネハマベエンマムシ *Hypocaccus lewisii* (Schmidt) (エンマムシ科)



青緑色の成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.



成虫の標本写真



銅色の成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.

**特 徴：**体長2.8-3.7mm（上野ほか，1985）。上翅には粗く不規則な点刻が密に覆う部分があり，光沢が鈍い。色彩変異がある。

**生 態：**海岸性種。漂着海藻や動物の死体に集まる。ハマベエンマムシに比べて個体数は少ない。春季に採集されているが，6月の記録もある。

**県内分布：**本土（出雲，石見）。

**文献記録：**河上・林（2007），端山（2010d），大原・林（2011），本報告。

ハマベエンマムシ *Hypocaccus varians* (Schmidt) (エンマムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.16.



成虫の標本写真



砂に潜る成虫。出雲市大社町，2014.4.16.

**特 徴：**体長 2.5–4.0mm (上野ほか, 1985). 全体に平滑で光沢が強い. 体色には銅色や紫銅色, 黒色など変異がある. また体長も個体により大きな差がある.

**生 態：**海岸性種. 砂浜の漂着海藻や動物の死体 (魚や鳥, 獣など) に集まる. 個体数も多い. 幼虫は古くなった海藻下からみつかるとは, 少ない.

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (西ノ島, 中ノ島).

**文献記録：**野津 (1978), 河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 端山 (2010d), 大原・林 (2011), 林 (2013a).

ツヤハマベエンマムシ *Eopachylopus ripae* (Lewis) (エンマムシ科)



黒色の成虫。出雲市大社町，2014.4.16.



成虫の標本写真



褐色の成虫。出雲市大社町，2014.4.17.

**特 徴**：体長 2.2-3.0mm (上野ほか, 1985)。左右上翅にはそれぞれ大きな赤色紋がある。

**生 態**：海岸性種。漂着海藻や動物の死体に集まる。ハマベエンマムシに比べて個体数は少ない。

**県内分布**：本土 (出雲)。鳥根半島周辺では 2006 年の調査ではまったく記録されていないが、2007 年以降は複数の記録がある。

**文献記録**：端山 (2010d)，大原・林 (2011)，林 (2013a)。

イズモコブセスジダルマガムシ *Ochthebius hayashii* Jäch et Delgado (ダルマガムシ科)



成虫。出雲市坂浦町，2014.6.16.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2006.6.24.

**特 徴：**体長 1.8-2.0mm (Jäch and Delgado, 2014)。背面は黒色で光沢が鈍い。前胸背板の側縁はまるい。島根県の海岸に似た甲虫はいないため、同定は容易。

**生 態：**海岸性種。岩礁地帯の岩の割れ目に生息し、藻類などを食べているとみられる。幼虫も成虫と同様な環境に生息する。一般に潮間帯に生息するが、日本海側では潮位差が少ないため、潮上帯に生息している。

**県内分布：**本土 (出雲)。

**文献記録：**河上・林 (2007)，林 (2012c)，島根県 (2014)：いずれもクロコブセスジダルマガムシとして記録。

ハマベムクゲキノコムシ *Actinopteryx parallela* (Britten) (ムクゲキノコムシ科)



成虫。出雲市坂浦町，2014.6.19.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2014.6.19.

**特 徴**：体長約0.8mm. きわめて微小. 背面は黒く，長毛が生える. 付属肢は黄褐色.

**生 態**：内陸にも生息する広生種であるが，レキ浜や岩礁に多く生息し，大きな石や岩の上に打ち上がった海藻に集まる. 動きはすばやく，海藻を動かすと飛翔して逃げる.

**県内分布**：本土（出雲），隠岐（西ノ島）.

**文献記録**：河上・林（2007），林ほか（2013）.

オオツノハネカクシ *Bledius salsus* Miyatake (ハネカクシ科)



オス成虫。隠岐の島町，2014.7.13.



成虫の標本写真



メス成虫。隠岐の島町，2014.7.13.

**特 徴：**体長6.2–7.3mm（上野ほか，1985）．オスの頭部に2本の突起があるほか，前胸背板に1本の長い角状突起がある．メス（標本写真の右）にはこの突起がない．

**生 態：**海岸性種．隠岐島後の重柄川河口干拓地の湿地において，灯火採集で多数の個体が採集されている（島田，2006b）．筆者の観察では，昼間に探してもまったく見つからなかった．

**県内分布：**隠岐（島後）．本土側での記録はない．

**文献記録：**島田（2006b）．

ウミベトガリハネカクシ *Medon prolixus* (Sharp) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市猪目町，2014.6.17.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.

**特 徴**：体長約 3.5mm. 頭部，前胸背板，腹部は暗褐色で，上翅と付属肢は黄褐色．頭部と前胸背板，前胸背板と上翅の間にあるくびれは明瞭．

**生 態**：海岸性種．レキ浜に生息する．島根半島の自然度の高い海岸では普通にみられる．

**県内分布**：本土（出雲），隠岐（島後）．

**文献記録**：河上・林（2007），河上ほか（2009），林ほか（2013）．

ツヤウミベコガシラハネカクシ *Philonthus nudus* Sharp (ハネカクシ科)



上翅が赤色の成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.



成虫の標本写真



上翅が黒色の成虫。出雲市大社町，2014.4.16.

- 特 徴**：体長 8.5-10.5mm (上野ほか, 1985)。背面は黒色で光沢があり，上翅が黒い個体と赤い個体がいる。頭部と前胸は光沢があり，粗大な点刻がある。上翅は光沢があり，点刻がやや密に覆う。
- 生 態**：海岸性種。砂浜の漂着海藻に多く集まる。
- 県内分布**：本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後，中ノ島)。
- 文献記録**：河上・稲畑 (2001)，河上・林 (2007)，河上ほか (2009)，端山 (2010d)，林 (2013a)。
- 備 考**：別名はツヤウミベハネカクシ。

オオアバタウミベハネカクシ *Cafius vestitus* (Sharp) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市河下町，2014.8.16.



成虫の標本写真



成虫。出雲市河下町，2014.8.16.

- 特 徴**：体長 7.5–9.0mm (上野ほか, 1985)。背面は全体に黒く、光沢を欠く。頭部と前胸背板を覆う点刻はやや不明瞭で、中央部に平滑部からなる太い中央線がある。
- 生 態**：海岸性種。砂浜とレキ浜の両方に生息するが、砂浜の方が多い。
- 県内分布**：本土 (出雲)、隠岐 (島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島)。
- 文献記録**：島田 (2006c)、河上・林 (2007)、河上ほか (2009)、端山 (2010d)、林ほか (2013)、林 (2013a)。
- 備 考**：別名はアバタウミベハネカクシ。

ホソアバタウミベハネカクシ *Cafius histrio* (Sharp) (ハネカクシ科)



成虫。松江市福富町，2006.4.18.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2014.4.3.

**特 徴：**体長 6.5–8.5mm (上野ほか, 1985). 背面は全体に黒く、やや弱い光沢がある。体は細い。オオアバタウミベハネカクシ (アバタウミベハネカクシ) に似ているが、より小型で、頭部の点刻間や平滑部にある網目状印刻は明瞭。

**生 態：**海岸性種。レキ浜に生息する。

**県内分布：**本土 (出雲)、隠岐 (島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島)。

**文献記録：**河上・林 (2007)、河上ほか (2009)、林ほか (2013)。

ヒラタバタウミベハネカクシ *Cafius mimulus* (Sharp) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.

**特 徴**：体長約 6.5mm。背面は全体に黒く、やや弱い光沢がある。サイズも含めてホソアバタウミベハネカクシに似ているが、本種は頭部がやや大きく、頭部表面の点刻が大きく密であることにより識別できる（ホソアバタウミベハネカクシの頭部は点刻間に微細印刻がある）。

**生 態**：海岸性種。レキ浜に生息する。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：河上・林（2007）：ヒメアバタウミベハネカクシの和名で記録。

ヒメアバタウミベハネカクシ *Cafius algarum* Sharp (ハネカクシ科)



成虫. 出雲市唐川町, 2014.5.6.



成虫の標本写真



成虫. 出雲市唐川町, 2014.5.6.

**特 徴**：体長約3.2mm. 全体に黒色. ホソアバタウミベハネカクシを小さくしたような形態をしている.  
アカウミベハネカクシと大きさが近いが, 体色が違うことと, 本種はより体形が細いことで区別  
できる.

**生 態**：海岸性種. 砂浜・レキ浜に生息し, 漂着海藻などに集まる.

**県内分布**：本土 (出雲).

**文献記録**：河上・林 (2007), 端山 (2010d).

**備 考**：別名はホソウミベハネカクシ.

アカバアバタウミベハネカクシ *Cafius rufescens* (Sharp) (ハネカクシ科)



黒色の成虫。出雲市大社町，2014.4.19.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.

**特 徴**：体長約3.2mm。上翅は全体に赤褐色。腹部も赤味を帯びる。ヒメアバタウミベハネカクシ（ホソウミベハネカクシ）に似ているが、体色で区別できる。

**生 態**：海岸性種。主に砂浜に生息し、漂着海藻などに集まる。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：河上・稲畑（2001），端山（2010d），林ほか（2013），林（2013a）。

**備 考**：別名はアカウミベハネカクシ。

ツヤケシアカバウミベハネカクシ *Phucobius simulator* Sharp (ハネカクシ科)



成虫。松江市美保関町，2014.4.8.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.17.

**特 徴：**体長 10.5-12.0mm (上野ほか, 1985)。体は黒色で上翅が赤い。上翅には光沢がない。上翅の点刻は非常に細かく光沢がないことで、上翅が赤いツヤウミベコガシラハネカクシ (ツヤウミベハネカクシ) とは容易に区別できる。

**生 態：**漂着した海藻や水草、ヨシなどの草本類に集まる。本種は、塩分濃度のきわめて低い宍道湖西岸にも生息している。

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後, 西ノ島, 中ノ島, 知夫里)。

**文献記録：**野津 (1978), 渡辺 (1997), 島田 (2006c), 河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 端山 (2010d), 林ほか (2013), 林 (2013a)。

**備 考：**別名はウミベアカバハネカクシ。

カタモンハネカクシ *Liusus hilleri* (Weise) (ハネカクシ科)



上翅が赤い成虫。松江市島根町，2014.4.8.



成虫の標本写真



上翅が黒い成虫。松江市島根町，2013.3.29.

**特 徴**：体長 11.5-15.5mm (上野ほか, 1985)。島根県の海岸性ハネカクシとしては最大級。上翅は黒い個体と赤い個体がいる。背面，特に前胸背板と上翅の光沢が強い。

**生 態**：主にレキ浜に生息する。採集時に擬死することがある。

**県内分布**：本土 (出雲)，隠岐 (島後，西ノ島，知夫里)。

**文献記録**：島田 (2006c)，河上・林 (2007)，河上ほか (2009)，林ほか (2013)。

ハヤマツヤケシヒゲブトハネカクシ *Aleochara hayamai* Yamamoto et Maruyama (ハネカクシ科)



成虫。松江市島根町，2014.4.3.



成虫の標本写真



成虫。松江市島根町，2014.4.3.

**特 徴**：体長2.9–4.6mm (Yamamoto and Maruyama, 2012)。ツヤケシヒゲブトハネカクシに似ているが、雄の腹部腹板末端節の先端が尖ること、雄交尾器の flagellum がいちじるしく長いことなどの特徴で区別できる (Yamamoto and Maruyama, 2012)。

**生 態**：海浜の漂着海藻に生息する (Yamamoto and Maruyama, 2012)。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後)。

**模式産地**：島根県内がホロタイプの産地 (松江市鹿島町古浦海岸) である。

**文献記録**：Yamamoto and Maruyama (2012)。

ホソセスジヒゲブトハネカクシ *Aleochara trisulcata* Weise (ハネカクシ科)



成虫。出雲市湖陵町，2013.11.9.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.

**特 徴**：体長2.8-4.0mm (Yamamoto and Maruyama, 2012)。前胸背板は粗く点刻され、その配列によって一対の細い隆起線と平滑部がある。中胸腹板の後端（中基節に挟まれた部分）は尖る。

**生 態**：海浜の漂着海藻に集まる。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：端山（2010d），Yamamoto and Maruyama（2012），林（2013a）。過去の記録ではニセスジヒゲブトハネカクシとの区別が行われていない。

フトツヤケシヒゲブトハネカクシ *Aleochara squalithorax* Sharp (ハネカクシ科)



上翅が暗褐色の成虫。出雲市大社町，2014. 4. 19.



成虫の標本写真



上翅が褐色の成虫。出雲市大社町，2014. 4. 17.

**特 徴**：体長 3.5–4.5mm (上野ほか, 1985)。上翅が黒色と橙色の個体がある。頭部が小さく、他のヒゲブトハネカクシ属の種とは容易に区別できる。

**生 態**：砂浜の漂着海藻に集まる。

**県内分布**：本土 (出雲)。

**文献記録**：河上・林 (2007)，端山 (2010d)，林 (2013a)。

ウシオヒメハネカクシ *Adota magnipennis* (Bernhauer) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.



成虫の標本写真



成虫（右端）。松江市鹿島町，2006.3.25.

**特 徴：**体長約 2.0mm。背面は黒色。砂浜に生息する海浜性ハネカクシの中でも最小である（体長はツヤウミベコガシラハネカクシの触角ほどの長さである：下段右の写真）。

**生 態：**海岸性種。主に砂浜に生息し，漂着した海藻などに集まる。砂浜の漂着海藻で小型種がいれば，本種である可能性が高い。個体数も少ない。

**県内分布：**本土（出雲，石見）。

**文献記録：**河上・林（2007），端山（2010d），林（2013a）。

ヒゲナガヒメハネカクシ *Psammostiba hilleri* (Weise) (ハネカクシ科)



成虫. 松江市島根町, 2014.4.8.



成虫の標本写真



成虫. 松江市島根町, 2014.4.8.

**特 徴**：体長約3.0mm. 背面は黒色で, 上翅がやや茶褐色を帯びる. 触角は黒く, 長い. 大きさや体形がツヤケシヒゲブトハネカクシ類に似ているが, 明らかに触角や肢が長い.

**生 態**：海岸性種. 島根県の海岸では少ない.

**県内分布**：本土 (出雲), 隠岐 (知夫里島).

**文献記録**：河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 林 (2013a).

ホソナギサハネカクシ *Bryothinusa minuta* (Sawada) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.7.1.



成虫の標本写真



海水に浮く成虫。出雲市大社町，2014.7.1.

**特 徴：**体長約 2.3mm。全体に黄褐色で、腹部の中央部の節が暗色になる。体は細長く、背面は平坦。頭部は前方に向かって狭まり、複眼は小さい。ナギサハネカクシ属の種は互いによく似ているため、確実に同定するには口器や生殖器の検討が不可欠である。

**生 態：**レキ浜の礫間に生息する。波打ち際を海水が出るまで掘ることによって、水面に浮かんでくる成虫を見つけることができる。

**県内分布：**本土（出雲，石見）。

**文献記録：**河上・林（2007），林（2013a）。

ワカサイソハネカクシ *Halorhadinus inaequalis* Sawada (ハネカクシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.7.1.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.7.1.

**特 徴**：体長約 2.9-3.5mm (Maruyama and Hayashi, 2009)。頭部は前方に向かって狭まる。大顎は細長い。触角の第 4 節から第 10 節は、幅と長さがほぼ同じ。

**生 態**：レキ浜に生息し、波打ち際を掘ることによって発見される。クロイソハネカクシに比べて産地は多いが、成虫の個体数は年によって大きく異なる。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：河上・林 (2007)，Maruyama and Hayashi (2009)，Ono and Maruyama (2014)。

ウスチャイソハネカクシ *Halorhadinus masakazui* Ono et Maruyama (ハネカクシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.7.1.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.9.

**特 徴**：体長約 3.4-3.6mm (Ono and Maruyama, 2014)。頭部は前方に向かって狭まる。大顎は細長い。触角は全体に長く、第4節から第10節は、長さが幅よりも大きい。本種は、ワカサイソハネカクシに似ているが、より大型で、触角が長い事で区別できる。

**生 態**：レキ浜に生息し、波打ち際を掘ることによって発見される。生息地は局部的。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：Ono and Maruyama (2014)。Maruyama and Hayashi (2009) によりクロイソハネカクシとして報告されている（誤同定）。

ウスアカウミセミゾハネカクシ *Myrmecopora rufescens* (Sharp) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.

**特 徴**：体長約2.5mm。背面から見て，頭部，前胸，上翅，腹部の境界が狭まり，アリガタハネカクシ亜科のような体形をしている。全体に赤褐色。

**生 態**：レキ浜に生息し，波打ち際を掘ることによって発見される。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：河上・林（2007）。

ウミセミゾハネカクシ *Myrmecopora algarum* (Sharp) (ハネカクシ科)



成虫。出雲市猪目町，2014.7.21.



成虫の標本写真



成虫。松江市美保関町，2014.4.8.

**特 徴**：体長約 2.3mm。全体に赤褐色。野外では橙色の上翅が目立つ。ウスアカセミゾウミハネカクシに比べて、小型で体形が細い。

**生 態**：レキ浜に生息し、波打ち際を掘ることによって発見される。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：河上・林（2007），端山（2010d）。

ヒラズイソアリヅカムシ *Physoplectus reikoeae* (Sawada)



成虫。出雲市坂浦町，2014.6.19.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2014.6.16.

- 特 徴**：体長約 1.3mm. 全体に赤褐色で，表面は微毛に覆われる．体は扁平．頭部は幅が広い．
- 生 態**：海岸性種．レキ浜の波打ち際を掘ることによって発見される．成虫は夏から秋に出現する．
- 県内分布**：本土（出雲）．島根半島では複数の地点で確認されている．
- 文献記録**：河上・林（2007）．
- 備 考**：別名ハマベアリヅカムシ（澤田，1995）．

ニセセマルケシマグソコガネ *Psammodyus maruyamai* Ochi, Kawahara et Inagaki (コガネムシ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.6.20.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.6.20.

**特 徴**：体長 2.3–2.6mm (Ochi *et al.*, 2011). 体型は太短く、丸味があり、後方でもっとも幅が広い。前胸背板には深い横溝が数本あり、上翅の条溝は深い。体色は赤褐色。近縁のセマルケシマグソコガネ *Psammodyus convexus* Waterhouse は、体型がより細く、全体に黒い。

**生 態**：海岸性種。成虫は海浜植物の根際を飾り掛けすることによって発見される。

**県内分布**：本土（出雲）。

**文献記録**：林（2013a）。

ヤマトケシマガソコガネ *Leiopsammodius japonicus* (Harold) (コガネムシ科)



黒色の成虫。出雲市大社町，2014.4.16.



成虫の標本写真



褐色の成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.

**特 徴：**体長3.5-4.7mm (川井ほか, 2005). 体型は筒型で黒い. 頭部は密に点刻され, 前胸背板は疎らに点刻される. 上翅間室は平滑.

**生 態：**海岸性種. 砂浜において, 漂着海藻や流木の下から見つかることが多い. 海浜植生帯での篩い掛けでは発見できない.

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後).

**文献記録：**野津 (1997), 河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 端山 (2010d), 林 (2013a).

ホソケシマガソコガネ *Trichiorhyssemus asperulus* (Waterhouse) (コガネムシ科)



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.



成虫の標本写真



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.

**特 徴：**体長3.0-3.6mm (川井ほか，2005)。体型は筒型で，光沢のない黒色。背面を細かな顆粒が覆い，前胸背板では顆粒からなる数本の横隆起線があり，上翅間室では顆粒が規則的に並ぶ。似た種にコケシマガソコガネがいるが，前胸背板の隆起線が不明瞭であることや，上翅間室の顆粒が粗大であることで区別ができる。

**生 態：**成虫は海浜植物の根際を篩い掛けすることによって発見される。河川敷の砂地にも多い普通種である。

**県内分布：**本土（出雲，石見）。斐伊川下流域では普通種で，灯火によく飛来する。

**文献記録：**林（2013a），本報告。

ニセマグソコガネ *Aegialia nitida* Waterhouse (コガネムシ科)



黒色の成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.



成虫の標本写真



褐色の成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.

**特 徴**：体長 3.5–4.5mm (川井ほか, 2005)。体型は太短く、丸味が強い。背面は黒色で光沢がある。特徴的な体型により同定は容易である。

**生 態**：海岸性種。砂浜植生帯のケカモノハシなど、植物の根際の砂を篩い掛けすることによって発見される (鈴木, 2006)。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見)。県内での生息地は局地的である。

**文献記録**：野津 (1978), 島根県 (2004, 2014), 鈴木 (2006)。

ババチビドロムシ *Babalimnichus masamii* M. Sato (チビドロムシ科)



成虫。出雲市坂浦町，2014.7.21.



成虫の標本写真



成虫。出雲市坂浦町，2014.7.21.

**特 徴**：体長2.0mm。体は楕円形で全体黒色。背面は銀色の微毛に覆われる。複眼が大きい。

**生 態**：海岸性種。岩礁の岩の割れ目や隙間に生息している。成虫は驚くと跳躍したと同時に飛翔して逃げる。成虫は真夏に多い。

**県内分布**：本土（出雲）。島根半島の2カ所のみで確認されている（林，2012e）。

**文献記録**：河上・林（2007），林（2012e）。

ツシマヒメサビキコリ *Agrypnus tsushimensis* Ohira (コメツキムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.24.



成虫の標本写真



成虫の腹面。出雲市大社町，2014.4.24.

**特 徴**：体長7-9mm（大平，1999）。体形は太短く，背面の点刻はやや粗く，密である。触角は全体に短く，第2，3，4節の長さがほぼ同じで，第4節から鋸歯状になることが特徴である（大平，1999）。

**生 態**：海岸性種。礫混じりの海岸に生息する。流木や石の下からみつけることができる。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（島後，知夫里島）。

**文献記録**：大平（1999），河上・稲畑（2001），河上・林（2007），河上ほか（2009）。

スナサビキコリ *Meristhus niponensis* Lewis (コメツキムシ科)



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.



成虫の標本写真



成虫の色彩変異。大田市鳥井町，2014.6.21.

**特 徴**：体長4-5mm（黒澤ほか，1985）。背面は茶褐色～黒褐色で，白色の鱗片が生えている。上翅には白色の斑紋がある。

**生 態**：広生種。河川敷や海岸の砂地に生息する。流木や石の下からみつけることができる。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（島後）。

**文献記録**：野津（1978），大平・福井（1993），大平・小阪（2012），本報告。

アカアシコハナコメツキ *Paracardiophorus sequens* (Candeze) (コメツキムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.16.



成虫の標本写真



成虫。大田市鳥井町，2011.5.14.

**特 徴**：体長 5-6mm (大平, 1999)。背面は黒色で弱い虹色の光沢があり，触角は黒色で，肢は黄褐色である (大平, 1999)。

**生 態**：海岸性種。砂浜に生息し，海浜植生帯の地表をすばやく歩き回る。

**県内分布**：本土 (出雲，岩見)，隠岐 (島後)。

**文献記録**：大平 (1999)，河上・林 (2007)，端山 (2010d)，大平・小阪 (2012)，林 (2013a)。

ルリキオビジョウカイモドキ *Intybia tokaraensis* (Nakane) (ジョウカイモドキ科)



オス成虫. 大田市鳥井町, 2014.6.21.



成虫の標本写真



メス成虫. 大田市鳥井町, 2014.6.21.

**特 徴**：体長 2.7-3.4mm (黒澤ほか, 1985). 雄の触角第 2 節は、ややいびつなハート型をしている。

**生 態**：海岸性種. 砂浜の植生帯において、地表や植物上を歩き回る。

**県内分布**：本土 (出雲, 岩見). 記録は少ないが、自然度の高い砂浜に広く生息しているとみられる。

**文献記録**：林 (2013a), 本報告。

イソジョウウカイモドキ *Laius asahinai* Nakane (ジョウウカイモドキ科)



メス成虫。出雲市多伎町，2008.6.8.



オス成虫の標本写真



メス成虫。出雲市多伎町，2008.6.8.

**特 徴：**体長 3.8-4.2mm (黒澤ほか, 1985). 背面は瑠璃色で金属光沢がある. 雄の触角第 2 節は, 幅が広い.

**生 態：**海岸性種. 岩礁に生息する. 比較的連続した岩礁に生息するが, 砂浜にある小さな岩礁にも生息する. 成虫は岩の上を, 飛翔を交えながらすばやく歩行し, 活動しない時は岩の割れ目などに潜んでいる.

**県内分布：**本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後).

**文献記録：**島根県 (2004, 2014), 端山 (2010c), Yoshitomi (2010), 林ほか (2013).

ハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia ornata* Pascoe (ゴミムシダマシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.16.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2005.5.15.

**特 徴**：体長 5.0mm 前後（黒澤ほか，1985）。鱗毛に覆われたゾウムシのような体形により，容易に同定できる。上翅の第 3・5・7・9 間室は隆起する。本種に近似したニセハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia vestita* Marseul は，上翅間室の隆起が第 3 間室のみが明瞭に隆起するが，島根県では未記録。

**生 態**：海岸性種。砂浜に漂着した海藻や流木，発砲スチロールの浮きなどの下に潜んでいる。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（西ノ島）。

**文献記録**：山崎（1968），野津（1978），河上・稲畑（2001），河上・林（2007），端山（2010d），林（2013a）。

オオマルスナゴミムシダマシ *Phelopatrum scaphoides* (Marseul) (ゴミムシダマシ科)



成虫。出雲市大社町，2004.6.6.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.

**特 徴**：体長 10.0-11.0mm (黒澤ほか, 1985)。体形は逆卵型。背面は黒色で弱い光沢がある。体の幅が広いので、大きくみえる。

**生 態**：海岸性種。海浜植生帯に生息し、日中は海浜植物の根元に潜んでいる。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見)。

**文献記録**：野津 (1978), 河上・稲畑 (2001), 河上・林 (2007), 端山 (2010d), 林 (2013a)。

オオスナゴミムシダマシ *Gonocephalum pubens* Marseul (ゴミムシダマシ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.4.22.

**特 徴**：体長 11.0-13.0mm (黒澤ほか, 1985)。オオマルスナゴミムシダマシと共に海浜に生息する大型のゴミムシダマシ。体は太く、両側縁はやや平行。外見や大きさが似ているヒメカクスナゴミムシダマシは、海浜で希に採集されている。

**生 態**：海岸性種。海浜植生帯に生息し、日中は海浜植物の根元に潜んでいる。

**県内分布**：本土 (出雲, 石見), 隠岐 (島後, 西ノ島)。

**文献記録**：野津 (1978), 河上・稲畑 (2001), 河上・林 (2007), 河上ほか (2009), 端山 (2010d), 林 (2013a)。

マルチビゴミムシダマシ *Caedius marinus* Marseul (ゴミムシダマシ科)



成虫。出雲市湖陵町，2014.5.16.



成虫の標本写真



成虫。出雲市湖陵町，2014.5.16.

**特 徴**：体長 4.0–4.5mm (黒澤ほか, 1985)。体形は太短い。上翅間室には白色の毛が列状に並ぶ。

**生 態**：海岸性種。砂浜に漂着した海藻や流木，発砲スチロール製の浮きなどの下に潜んでいる。

**県内分布**：本土 (出雲)。

**文献記録**：野津 (1978)，河上・林 (2007)，端山 (2010d)。

ヒメホソハマベゴミムシ *Micropedinus pallidipennis* Lewis (ゴミムシ科)



成虫。出雲市大社町，2014.4.17.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014.4.17.

**特 徴**：体長 3.0–4.0mm (黒澤ほか, 1985)。体形は細長い楕円形で、やや平たい。全体に黄褐色の個体と黒色の個体がいる。

**生 態**：海岸性種。砂浜に漂着した海藻や流木，発砲スチロール製の浮きなどの下に潜んでいる。

**県内分布**：本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後，西ノ島)。

**文献記録**：山崎 (1968)，河上・林 (2007)，河上ほか (2009)，端山 (2010d)，林 (2013a)。

ヨツボシホソアリモドキ *Pseudoleptaleus valgipes* Marseul (アリモドキ科)



成虫。出雲市園町宍道湖岸，2014.9.4.



成虫の標本写真



成虫。出雲市園町宍道湖岸，2014.9.4.

**特 徴**：体長 1.7-2.1mm (黒澤ほか, 1985)。頭部は黒色で，前胸背板は赤褐色，上翅は黒色で4つの黄色紋がある。

**生 態**：砂地に生息する広生種。河口や宍道湖岸に多い。

**県内分布**：本土 (出雲，石見)，隠岐 (島後)。

**文献記録**：河上・林 (2007)，河上ほか (2009)。

ホソアシチビイッカク *Mecynotarsus tenuipes* Champion (アリモドキ科)



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.



成虫の標本写真



成虫。大田市鳥井町，2014.6.21.

**特 徴**：体長 2.5-3.0mm (黒澤ほか, 1985)。前胸背板の前方に三角形の大きな突起がある。前胸背板は黄褐色，上翅は黒色で4つの褐色紋がある。肢はいちじるしく細長い。

**生 態**：砂浜において，海浜植生帯の地表を歩き回る。

**県内分布**：本土（出雲，石見）。

**文献記録**：林（2013a），本報告。

スナムグリヒョウタンゾウムシ *Scepticus tigrinus* (Roelofs) (ゾウムシ科)



アキグミの葉を食べる成虫。出雲市湖陵町，2014. 5. 16.



成虫の標本写真



成虫。出雲市大社町，2014. 4. 17.

**特 徴**：体長 7.5–9.0mm (林ほか, 1984)。体形は太短く，左上翅の膨らみは大きい。背面は暗灰色～灰白色で白色や黒色の斑点があるが，変異が大きい。トビイロヒョウタンゾウムシに比べて複眼は突出しない。

**生 態**：海岸性種。砂浜において，漂着物の下に隠れていることや海浜植生の周辺で歩行している姿がよく目撃される。

**県内分布**：本土（出雲，石見），隠岐（島後）。島根県西端付近の海浜には次種のトビイロヒョウタンゾウムシが分布する（沢田，2008）。

**文献記録**：河上・林（2007），沢田（2008），端山（2010d），林ほか（2013）。

トビイロヒョウタンゾウムシ *Scepticus uniformis* Kono (ゾウムシ科)



成虫。益田市小浜町，2014.8.27.



成虫の標本写真



成虫。益田市小浜町，2014.8.27.

**特 徴**：体長 6-9mm (林ほか, 1984)。体形は太短く，左右上翅の膨らみは大きい。背面は暗灰色～灰白色で白色や黒色の斑点があるが，変異が大きい。スナムグリヒョウタンゾウムシに酷似するが，複眼は丸く突出し，前脛節はほとんど湾曲しない。また，雄交尾器が全体に短いことで区別できる (沢田, 2008)。

**生 態**：海岸性種。砂浜において，漂着物の下に隠れている個体を採集した。

**県内分布**：本土 (石見：益田市)。沢田 (2008) において，鳥根県の西部に分布することが報告された。

**文献記録**：沢田 (2008)，本報告。

## 謝 辞

鳥根県での海岸性昆虫の調査を行うにあたり、門脇久志氏、藤原淳一氏、松田隆嗣氏、深谷 治氏には特に野外調査で、河上康子氏、丸山宗利博士、端山 武氏、山本周平氏、森田誠司氏、坂井誠博士、吉田浩史氏、島田 孝氏には、同定や標本の入手にあたってお世話になった。これらの方々に厚くお礼を申し上げる。

## 文 献

- 秋山美文 (1995) チャイロチゲンゴロウを鳥根県で採集. 昆虫と自然, **30**(8): 29.
- 近木英哉 (1975) 出雲砂質海岸の昆虫. 「鳥根県自然環境保全地域候補地学術調査報告書第集 1. 出雲砂質海岸」: 23-27.
- 近木英哉 (1997) 木次町尺の内公園周辺の昆虫相 (1993-1996 年). ホシザキグリーン財団研究報告, (1): 43-52.
- 古田 治 (2005) 鳥取砂丘採集記 (ゴヘイニクバエを求めて). はなあぶ, (19): 43-46.
- 端山 武 (2009a) 鳥根県出雲市の外圍海岸に漂着するセンチウミアメンボ. ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 147-148.
- 端山 武 (2010a) 鳥根県出雲市坂浦海岸からのイソハサミムシ (ハサミムシ目ハサミムシ科) の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13): 149-150.
- 端山 武 (2010b) 鳥根県益田市喜阿弥海岸からのウミミズギワゴミムシ (コウチュウ目オサムシ科) の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13): 147-148.
- 端山 武 (2010c) 鳥根県におけるイソジョウカイモドキ (コウチュウ目ジョウカイモドキ科) の採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (13): 151-154.
- 端山 武 (2010d) 砂浜の微環境における海岸性甲虫相. 昆虫と自然, **45**(10): 19-22.
- 端山 武 (2012a) 隠岐の島町のウミミズカメムシの記録. すかしば, (59): 38-39.
- 端山 武 (2012b) 浜山公園のオオヒョウタンゴミムシの記録. すかしば, (59): 39.
- 林 成多 (2005a) 「改訂しまねレッドデータブック」に掲載された直翅類の観察記録. すかしば, (53): 38-39.
- 林 成多 (2006a) 「改訂しまねレッドデータブック」に掲載された直翅類の観察記録 (その 2). すかしば, (54): 66-67.
- 林 成多 (2006b) 出雲市の海岸で採集したウミコオロギ. すかしば, (54): 29.
- 林 成多 (2006c) 宍道湖西岸の干潟に生息するゴミムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 112.
- 林 成多 (2006d) オオヒョウタンゴミムシ成虫の出現時期について. すかしば, (54): 65.
- 林 成多 (2007a) 鳥根県におけるバッタ・コオロギ・キリギリス類の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 119-141.
- 林 成多 (2007b) 鳥根半島におけるウミミズカメムシの生息状況. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 115-118.
- 林 成多 (2012a) 鳥根県の海浜におけるアリジゴク 4 種の分布. ホシザキグリーン財団研究報告,

- (15): 201-206.
- 林 成多 (2012b) 鳥根県の陸生ガムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 69-77.
- 林 成多 (2012c) 山陰のダルマガムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 53-63.
- 林 成多 (2012d) 鳥根県松江市大橋川産のツマグロマルハナノミについて. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 248.
- 林 成多 (2012e) 山陰のチビドロムシとナガドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 11-18.
- 林 成多 (2013a) 鳥根県の海岸性甲虫. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (9): 1-98.
- 林 成多 (2013b) 鳥根県と鳥取県西部のアリジゴク. ホシザキグリーン財団研究報告, (16): 189-205.
- 林 成多・藤原淳一・島田 孝・米田友祐・六車恭子・成田行弘 (2006) 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料-2005年8月7-10日に島後で採集・観察した昆虫類の目録-. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 245-263.
- 林 成多・端山 武 (2009) 海浜性甲虫コケンガムシの幼生期に関する知見. 甲虫ニュース, (165): 1-4.
- 林 成多・門脇久志 (2013) 隠岐諸島産直翅系昆虫類 (昆虫綱多新翅亜節) の目録. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8): 75-90.
- 林 成多・門脇久志・松田隆嗣・深谷 治・近見芳恵 (2013) 隠岐諸島における昆虫類分布調査 (2009-2012年調査のまとめ). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (8): 1-73.
- 林 成多・松田隆嗣 (2011) 山陰地方の海岸におけるセンタウミアメンボとツヤウミアメンボの漂着. ホシザキグリーン財団研究報告, (14): 205-211.
- 林 成多・松田隆嗣 (2014) 鳥根県出雲市の海岸砂丘に生息する昆虫類の目録. ホシザキグリーン財団研究報告, (17): 263-284.
- 林 成多・松田隆嗣・門脇久志・深谷 治・近見芳恵 (2012) 隠岐諸島における昆虫類分布調査 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 287-297.
- 林 成多・大浜祥治 (2014) 鳥根県に生息する直翅目の目録と生態写真集. ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (11): 1-90.
- 林 成多・島田 孝 (2005) 隠岐島後でチャイロチゲンゴロウを採集. すかしば, (53): 48.
- 林 正美・宮本正一 (2005) 半翅目 Hemiptera. 川合禎次・谷田一三 (編) 「日本産水生昆虫 科・属・種への検索」: 291-378. 東海大学出版会, 東京.
- 林 匡夫・森本 桂・木元新作 (1984) 「原色日本甲虫図鑑 IV」. 保育社, 大阪.
- 平嶋義宏・森本 桂 監修 (2008) 「原色日本昆虫大図鑑第 III 巻」. 北隆館, 東京.
- 本多健一郎 (1985) プチヒゲカメムシに寄生するアカヒョウタンハリバエについて. 日本応用動物昆虫学会誌, **29**(1): 78-80.
- 細澤豪志・星川和夫 (2001) 南西日本におけるヤマトイソユスリカ *Telmatogeton japonicus* の生活史. ホシザキグリーン財団研究報告, (5): 207-213.
- 市川顕彦 (2002) 鳥根県多伎町に生息するウミコオロギについて. 月刊むし, (377): 48.

- 石川 忠・高井幹夫・安永知秀 編 (2012) 「日本原色カメムシ図鑑 第3巻 陸棲カメムシ類」. 全国農村教育教会, 東京.
- 石谷正宇・門脇久志 (2000) ゴミムシ相およびその生物学的研究(4) 島根半島のゴミムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (4): 27-39.
- 板倉宏文 (1970) 浜山にて得た甲虫2種. *NECYDALIS*, 3(1): 9.
- 出雲河川事務所 (2009) 参考資料-2 動物・植物・生態系 「大橋川改修事業 環境調査最終とりまとめ」. 国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所.
- Jäch M. A. and J. A. Delgado (2014) Revision of the Palearctic species of the genus *Ochthebius* Leach XXIX. The Asian species of the *O. vandykei* group (Coleoptera: Hydraenidae). *Koleopterologische Rundschau*, 84: 81-100.
- 柿沼 進 (2009a) 島根県浜田市でゴヘイニクバエを採集. はなあぶ, (27): 56.
- 柿沼 進 (2009b) 山口県・島根県の海浜性ツルギアブ分布記録. はなあぶ, (27): 54-55.
- 柿沼 進 (2010) 島根県のニクバエ科分布記録 (2009). すかしば, (58): 1-2.
- 亀山 剛・西 真弘・中村慎吾 (2009) 江の川の昆虫類 2004年の調査結果. 比和科学博物館研究報告, (50): 1-219.
- 紙谷聡志 (2011) 日本産スナヨコバイの学名の訂正と九州からの記録. *Rostria*, (53): 1-4.
- 川井信矢・堀 繁久・河原正和・稲垣政志 (2005) 「日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群」. 昆虫文献六本脚, 東京.
- 河上康子・林 成多 (2007) 日本海沿岸の海岸性甲虫類の研究(2) 島根半島. ホシザキグリーン財団研究報告, (10): 37-76.
- 河上康子・藤原淳一・沼田京子 (2009) 2008年10月に隠岐諸島の海岸で採集した甲虫類の記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 149-161.
- 河上康子・稲畑憲昭 (2001) 島根県三隅町田ノ浦海岸の甲虫-オオヒョウタンゴミムシほかの記録. *Nature Study*, 47(3): 9-10.
- 河上康子・大橋和典・稲畑憲昭 (2004) 兵庫県播磨灘沿岸と和歌山県紀伊水道沿岸の海浜性甲虫相および種構成と海浜環境の関係に関する検討. 大阪市立自然史博物館研究報告, (58): 19-46.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (1985) 「原色日本甲虫図鑑 III」. 保育社, 大阪.
- 皆木宏明・前田泰生・北村憲二 (2000) 海浜における送粉生態系の保全に関する研究1. 大社砂丘における訪花昆虫の種類とそれらの季節消長. ホシザキグリーン財団研究報告, (4): 139-160.
- 前田泰生・北村憲二・松本圭司・宮永龍一 (2004) 海浜における送粉生態系の保全に関する研究2. 山陰地方の海浜性植物ハマゴウ (クマツヅラ科) における有剣類の送粉様式. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 275-303.
- Maruyama, M. (2011a) New record of the seashore genus *Salinamexus* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Japan, with descriptions of a new species. *Esakia*, (50): 105-114.
- Maruyama, M. (2011b) New record of the seashore genus *Heterota* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Japan, with description of a new species. *Esakia*, (50): 97-104.
- Maruyama, M. and M. Hayashi (2009) Description of the intertidal aleocharine *Halorhadinus sawadai*

- sp. n. from Japan, with notes on the genus *Halorhadinus* Sawada, 1971. *Koleopterologische Rundschau*, **79**: 71–82.
- 松田隆嗣 (2012) ハマゴウノメイガを島根県で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 298.
- 宮武頼夫・加納康嗣 (1992) 検索入門「セミ・バッタ」. 保育社, 大阪.
- Moore, I. and E. F. Legner (1976) Intertidal rove beetles (Coleoptera: Staphylinidae). Cheng, L. (ed) *Marine Insects*: 521–535. North-Holland Publishing Co., Amsterdam.
- 村井貴史・伊藤ふくお (2011) 「バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑」. 北海道大学出版会, 札幌.
- 長見和正 (1958) ウミミズカメムシの新産地. *新昆虫*, **11**(2): 48–49.
- Nagatomi, A. (1983) The Japanese *Stichopogon* (Diptera, Asilidae). *Kontyu, Tokyo*, **51**: 474–486.
- 永富 昭・大石久志 (2000) 日本産ツルギアブの同定. はなあぶ, (9): 1–32.
- 中村慎吾・亀山 剛・片山舜輔 (2001) 江の川の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (5): 17–114.
- 中村慎吾・松田 賢 (2005) 島根県高津川の昆虫類, 2000年の調査結果. ホシザキグリーン財団研究報告, (8): 99–172.
- 中菌洋行 (2004) ハマベツチカメムシを島根県で採集. すかしば, (52): 16.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 編 (2013) 「日本産蛾類標準図鑑 IV」. 学研, 東京.
- 日本ユスリカ研究会 編 (2010) 「図説日本のユスリカ」. 文一総合出版, 東京.
- Nishikawa, M. (2008) A New species of the genus *Anisolabis* from Japan and Korea, with notes on the nomenclatural problem of two subspecific names of *Anisolabis maritima* (Bonelli) (Dermaptera: Anisolabididae). *Insecta matsumurana. New series*, **64**: 35–51.
- 西川 勝・島田 孝 (2004) 隠岐諸島のハサミムシ目. すかしば, (52): 20–21.
- 野津 裕 (1978) 島根県の甲虫. すかしば, (9): 9–12.
- 野津幸夫 (1997) ケシマグソコガネ類2種の記録. すかしば, (45): 81.
- 尾原和夫 (1989) 浜山のオオヒョウタンゴミムシ. すかしば, (32): 31.
- 尾原和夫 (1992) クロマツ林における「松枯れ対策」空散で死亡した昆虫類. すかしば, (37/38): 67–73.
- Ochi, T., M. Kawahara and M. Inagaki (2011) Taxonomic notes on some Japanese coprophagous lamellicorn beetles (Coleoptera, Scarabaeidae) VIII. Description of a new species of the genus *Psammodyus* and a new species of the genus *Trichiorhyssenus* (Aphodiidae) from Tanegashima Is., southwest Japan. *KOGANE*, (12): 69–77.
- 大浜祥治 (2001) 高島で確認した昆虫メモ. すかしば, (49): 23–25.
- Ohara, M. and J. Fujiwara (2009) New distribution record of *Cercyon* (*Cercyon*) *numerosus* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Oki Islands off northwestern Honshu, Japan. *Elytra, Tokyo*, **37**(1): 141–142.
- Ohara, M. and F. Jia (2006) Terrestrial Hydrophilid beetles of the Kuril Archipelago (Coleoptera, Hydrophilidae). *Biodiversity and Biogeography of the Kuril Islands and Sakhalin*, **2**: 129–150.
- 大原昌宏・林 成多 (2011) 島根県のエンマムシ類. さやばねニューシリーズ, (1): 22–25.

- 大平仁夫 (1999) 隠岐諸島のコメツキムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (3): 223-237.
- 大平仁夫・福井修二 (1993) 島根県・鳥取県のコメツキムシ類の分布記録(1). すかしば, (39/40): 45-47.
- 大平仁夫・小阪敏和 (2012) 広島県とその周辺地域の島嶼の海浜で見出されたコメツキムシ類の分布記録. 広島虫の会会報, **51**: 11-14.
- 大石久志・乙部 宏 (2003) 三重の海浜性ムシヒキアブ. はなあぶ, (16): 49-52.
- Ono, H. and M. Maruyama (2014) Five new species of the intertidal genus *Halorhadinus* Sawada, 1971 (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Japan. *ESAKIA*, (54): 41-50.
- 斎藤伸弘 (2004) 鹿児島県吹上浜の有剣ハチ類. 昆虫と自然, **39**(12): 16-20.
- 佐藤仁志 (1986) 宍道湖岸でナゴヤサナエの大量羽化を確認. すかしば, (26): 12-13.
- Satoh, A, T. Sota, T. Ueda, Y. Enokido, J. C. Paik and M. Hori (2004) Evolutionary history of coastal tiger beetles in Japan based on a comparative phylogeography of four species. *Molecular Ecology*, **13**: 3057-3069.
- 澤田高平 (1995) 甲虫目 (鞘翅目). 西村三郎編著「原色検索日本海岸動物図鑑 II」: 455-478. 保育社, 大阪.
- 沢田佳久 (2008) 浜の瓢箪象. 月刊むし, (443): 37-42.
- 澤田佳宏・中西弘樹・押田佳子・服部 保 (2007) 日本の海岸植物チェックリスト. 人と自然, (17): 85-101.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平 (2013) 日本産ハネカクシ科総目録 (昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, **11**: 69-218.
- 島田 孝 (2006a) 隠岐島後の重栖川河口の地表性甲虫(1) ハマベゴミムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 126.
- 島田 孝 (2006b) 隠岐島後の重栖川河口の地表性甲虫(2) オオツノハネカクシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 144.
- 島田 孝 (2006c) 隠岐諸島のハネカクシ相 (甲虫目ハネカクシ科). ハネカクシ談話会ニュース, (29): 1-3, 5.
- 島田 孝・尾原和夫・大浜祥治 (2005) 隠岐の水生食肉甲虫類. すかしば, (53): 41-48.
- 島根県 (2004) 「改訂しまねレッドデータブックー島根県の絶滅のおそれのある野生動植物」. 島根県環境生活部景観自然課.
- 島根県 (2014) 「改訂しまねレッドデータブックー島根県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編 2014」. 島根県環境生活部自然環境課.
- 篠木善重 (2011) ヤマトツルギアブ三重県と徳島県の海浜での記録. はなあぶ, (31): 56-57.
- 鈴木謙治 (2006) ニセマグソコガネの採集記録. すかしば, (54): 32.
- 多田内修・村尾竜起 編 (2014) 「日本産ハナバチ図鑑」. 文一総合出版, 東京.
- 寺山 守・長瀬博彦 (2007) 日本産有剣膜翅類検索表 7. ツチバチ科 (Scoliidae) の検索表. つねきばち, (11): 1-26.

- 寺山 守・須田博久・室田忠男・田塾 正 (2011) 日本のアリバチ図鑑～美しいアリには手を出すな～. 月刊むし, (481): 12-25.
- 友国雅章・林 正美 (2006) 相模灘沿岸部の半翅類 (昆虫綱). 国立科学博物館専報, (42): 285-310.
- 鶴崎展巨 (2008) 鳥根県と福岡県における海浜性アリジゴク (脈翅目: ウスバカゲロウ科) の分布. すかしば, (56): 33-36.
- 鶴崎展巨・林 成多・宮永龍一・一澤 圭・川上 靖 (2012) 鳥取砂丘の昆虫類目録. 山陰自然史研究, (7): 47-82.
- Ueno, S.-I. (1956) New halophilous trechids of Japan (Coleoptera, Harpalidae). *Memoirs of the College of Science, University of Kyoto Series B*, **23**(1): 61-68.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (1985) 「原色日本甲虫図鑑 II」. 保育社, 大阪.
- 渡辺泰明 (1997) 隠岐島のハネカクシ. 甲虫ニュース, (38): 5-6.
- 矢代 学・市川顕彦 (2002) 鳥根県多伎町でハマスズを発見. 月刊むし, (372): 48.
- 八幡浩二 (1998) 隠岐・鳥根でタマムシ・エリザハンミョウを採集. すかしば, (46): 56.
- 山田 学 (2004) 益田市のクチキコオロギ・ウミコオロギ類の採集記録. すかしば, (52): 30-31.
- 山本正志 (2005) 鳥根県中部地域 (江の川流域) におけるハンミョウ類の採集及び観察記録. すかしば, (53): 31-34.
- Yamamoto, S. and M. Maruyama (2012) Revision of the Seashore-dwelling Subgenera *Emplenota* Casey and *Triochara* Bernhauer (Coleoptera: Staphylinidae: genus Aleochara) from Japan. *Zootaxa*, **3517**: 1-52.
- 山崎秀雄 (1968) 隠岐諸島のゴミムシダマシ類. *New Entomologist*, **17**(5): 1-4.
- 山崎秀雄 (1975) 千葉県海岸性甲虫類. 「千葉の生物」: 149-157. 日本生物教育会第 30 回全国大会千葉大会実行委員会.
- 山崎秀雄 (1997) 海岸性昆虫. 「東京湾の生物誌」: 336-351. 築地書館, 東京.
- 安永知秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫 (1993) 友国雅章監修「日本原色カメムシ図鑑」. 全国農村教育協会, 東京.
- 祐源仁太郎 (1934) 分布二件. *昆虫世界*, **11**(11): 576-577.
- 淀江賢一郎・星川和夫・門脇久志・尾原和夫・三島秀夫 (2000) 松江市円木池とその周辺の昆虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (4): 161-192.
- 淀江賢一郎・星川和夫・齊藤光男・門脇久志・尾原和夫 (1998) 鳥根県斐伊川水系の昆虫類 (1997年の調査結果). ホシザキグリーン財団研究報告, (2): 7-86.
- 淀江賢一郎・門脇久志・祖田 周 (1987) 1986年宍道湖のナゴヤサナエ羽化殻調査. すかしば, (27): 12-13.
- Yoshitomi, H. and Chi-Feng Lee (2010) Revision of the Taiwanese and Japanese species of the genus *Laius* (Insecta: Coleoptera: Malachiidae). *Zoological Studies*, **49**(4): 534-543.
- 吉富博之・原 有助・松野茂富 (2013) 愛媛県のウスバカゲロウ 付・愛媛大学ミュージアム所蔵の標本リストと日本産種リスト. 面河山岳博物館研究報告, (5): 1-10.

訂 正

ホシザキグリーン財団研究報告特別号第9号「島根県の海岸性甲虫」について種名の間違  
いがありますので、訂正いたします。(著者)

**P. 30 図 14 上から 3 段目 右端の標本写真の種名**

【誤】 ヒメホソハマベゴミムシダマシ

【正】 ハマヒョウタンゴミムシダマシ

**P. 83 Box. 8 ヨシ原のテントウムシ 標本写真の種名**

【誤】

標本写真の種名. 右から, ヤマトヒメテントウ・クロヘリヒメテントウ・ババヒメテントウ

②クロヘリヒメテントウ: 体長 1.5-2.3 mm. 前胸背板は部分的に橙色. 上翅は黒い.

③ババヒメテントウ: 体長 1.8-2.5 mm. 上翅の中央部は黒く, 側方は橙色.

【正】

標本写真の種名. 右から, ヤマトヒメテントウ・ババヒメテントウ・クロヘリヒメテントウ

②ババヒメテントウ: 体長 1.8-2.5 mm. 前胸背板は部分的に橙色. 上翅は黒い.

③クロヘリヒメテントウ: 体長 1.5-2.3 mm. 上翅の中央部は黒く, 側方は橙色.

下線部が訂正の必要な箇所となります.

---

2015年1月10日発行

Issued : January 10, 2015

---

ホシザキグリーン財団研究報告特別号

**Spec. Bull. Hoshizaki Green Found.**

第 14 号

No.14

発行人 坂本 精志

Published by

発行所 公益財団法人 ホシザキグリーン財団

Hoshizaki Green Foundation

〒691-0076 出雲市園町 1664-2

Izumo, Shimane Pref., 691-0076 Japan

TEL(0853)63-7878 FAX(0853)63-0987

TEL(0853)63-7878 FAX(0853)63-0987

印刷所 (株)報光社

Printed by Hôkôsha Co., Ltd.

---

**Special Bulletin of the Hoshizaki Green Foundation**

**No. 14**

(Issued : January 10, 2015)

**Marine and Coastal Insects  
in Shimane Prefecture, West Japan**

**By Masakazu HAYASHI**

**Hoshizaki Institute for Wildlife Protection  
Hoshizaki Green Foundation (Hoshizaki Green Zaidan)  
Sono, Izumo, Shimane Pref., 691-0076 Japan**